岐阜県建設工事検査基準

令和4年4月版

岐阜県建設工事検査基準

(目的)

第1 この基準は岐阜県建設工事における土木工事の検査に必要な基準を定めることに より検査の適正な実施を図ることを目的とする。

(適用)

第2 この基準は建設工事検査要領第4に定める検査に適用する。

(検査の基準)

第3 検査の基準は別表1「工事実施状況の検査」、参考1-1~2の「検査方法」及 び、別表2「出来形検査基準及び規格値」によるものとする。

なお、品質関係は、岐阜県建設工事共通仕様書(建設工事施工管理基準)の「品質管理基準及び規格値」を参考とし、検査を行うものとする。

2 検査時に明視できる部分については実測検査とし、不可視部分で検査時に現地確認 が困難な部分については監督員の測定あるいは確認した資料(記録写真を含む。)に より検査を行うものとする。

また、検査員が必要があると認められる時は、理由を受注者に通知して最小限度の破壊検査を行うものとする。

※舗装工のコアー採取・掘り起こし:厚さを確認した管理資料(記録写真)があれば検査時に 確認は省略することが出来る。

コンクリートブロク積工の抜きブロック、裏堀:出来形管理資料(記録写真等)で確認が出来れば、検査 時は確認は省略できる。

3 工事材料又は機器の検査においてやむを得ない場合は試験記録又は試験検定に基づいて検査を行うものとする。

(検査の合否判定)

- 第4 検査の合格又は不合格の判定基準は次によるものとする。
 - (1) 合格

測定結果がいずれの出来形及び品質も規格値を満足する場合。

(2) 不合格

測定値が前項に該当しない場合。

(工事成績評定基準)

第5 検査要領第17に基づき工事成績評定をするための基準は「岐阜県建設工事成績 評定要領」によるものとする。

別表 1

工事実施状況の検査(留意事項)

項目	内容	摘 要
工事の監督	監督の状況 確認、立会及び指示、承諾協議事項等処理内容	監督要領
施工管理	工程管理、出来形管理、品質管理及び写真管理	建設工事施工管理基準
支給品及び貸与品	支給、受領、保管、使用及び返納の処理状況	支給品受領書等資料
工 事 用 資 材 の 解体及び発生材	工事用資材の解体処理及び発生品の利用・処理 状況	現場発生品調書 産業廃棄物管理票 (マニュフェスト)
現場管理	現場管理状況、交通処理状況及び安全・訓練・ 措置内容	各管理実施状況 施工計画書
確認事項	特記仕様書(施工条件明示一覧表) 作業残土処理(計画·実施)書	適正処理の指導

(参考1-1)

検 査 の 共 通 事 項

項目	検査の方法
延長	施工管理資料に基づき測点箇所を抽出して、全延長を確認する。
平面線形	法線を見通し、直線の通り、曲線部、緩和区間の取り合わせを確認する。
計 画 高、縦 断、横断勾配	BMを確認し、基準高、勾配を起終点並びに勾配の変化点等を重点的に 実測して確認する。
幅員、法長、法勾配	施工管理資料に基づき測点箇所を抽出し、実測して確認する。
構造物	 1 長さ、幅、高さ、厚さ等を実測して出来形寸法を確認する。 重要構造物については、スチールテープを使用する。 2 コンクリート構造物の圧縮強度は、検査員が必要があると認められる時は、理由を請負者に説明しテストハンマー(シュミットハンマー)等で測定し、必要に応じコアー採取のうえ強度試験をする。 3 重要なコンクリート構造物については、検査員が必要があると認められる時は、漏水の有無を削孔注水により確認する。 4 品質については、材料の品質を証明する資料により確認する。
埋 設 構 造 物	埋め戻しされている構造物は、工事写真及び段階確認書で確認する。
主 要 資 材	規格、品質、数量等を関係書類その他実地検査により判定する。

(参考1-2)

工種別検査方法(品質)

項目	検査項目	検 査 内 容	検 査 方 法
(1)共 通	出来ばえ	仕上げ面、通り、すり付け 等の程度及び全般的な外 観は良好か。	 主に観察により検査する。 場合により実測する。
	構造物の機能	構造物又は附属設備等の 性能は設計図書等と対比 して適切か。	主に実際操作してみて検査する。
	材料	品質及び形状寸法は、設計 図書等と対比して適切か。	 観察又は品質証明書により検査する。 場合により実測する。
(2)土 工	1 土質又は岩質2 支持力又は密度	 土質・岩質は設計図書等と一致しているか。 支持力又は密度は設計図書等と対比して適切か。 	 主に施工管理記録及び 観察により検査する。 場合により実測する。
(3)路盤工	 合成粒度 支持力又は密度 	 路盤材料の合成粒度は 設計図書等と対比して 適切か。 支持力又は締固め度は 設計図書等と対比して 適切か。 	同上
(4)セメント コンクリートエ	コンクリートの強度	コンクリートの強度等は、 設計図書等と対比して 適切か。	同上
(5)アスファルト コンクリートエ	 アスファルト使用量 骨材粒度 密度 舗設温度 	アスファルト使用量、骨材粒度、密度及び舗設温度は設計図書と対比して適切か。	 主に既に採取されたコ アー及び現地の観察並 びに施工管理資料によ り検査する。 場合により実測する。
(6)基礎杭工	1 支持力 2 上部構造部との関係	 支持力は、設計図書等と 対比して適切か。 基礎の位置、上部との 接合部等は適切か。 	 主に施工管理資料及び 観察により検査する。 場合により実測する。

出来形検査基準及び規格値 目次

【第1編 共通編】

第2章 土工

章、節	条	枝番	頁
第3節 河川土工・砂防ニ	±エ 2-3-2	掘削工	
		掘削工(面管理の場合)	19
		掘削工(水中部)(面管理の場合)	19
	2-3-3	盛土工	
		盛土工(面管理の場合)	
	2-3-4	盛土補強工	
		(補強土(テールアルメ)壁工法)	
		(多数アンカー式補強土工法)	20
		(ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	
	2-3-5	法面整形工(盛土部)	
	2-3-6	堤防天端工	
第4節 道路土工	2-4-2	掘削工	21
		掘削工(面管理の場合)	21
	2-4-3	路体盛土工	
		路体盛土工(面管理の場合)	22
	2-4-4	路床盛土工	
	2-4-5	法面整形工(盛土部)	

第3章 無筋・鉄筋コンクリート

章、節	条	枝番	頁
第7節 鉄筋工	3-7-4	組立て	22

【第3編 土木工事共通編】

第1章 一般施工

章、節	条	枝番	頁
第3節 共通的工種	1-3-4	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕	
		·····································	
		 (軽量鋼矢板)	
		 (コンクリート矢板)	
		 (広幅鋼矢板)	
		 (可とう鋼矢板)	
	1-3-5	縁石工	
		 (縁石・アスカーブ)	
	1-3-6	小型標識工	
	1-3-7	防止柵工	
		 (立入防止柵)	23
		 (転落(横断)防止柵)	
		 (車止めポスト)	
	1-3-8	路側防護柵工	
		(ガードレール)	
		路側防護柵工	
		 (ガードケーブル)	
	1-3-9	区画線工	
	1-3-10	道路付属物工	
		 (視線誘導標)	
		 (距離標)	
	1-3-11	コンクリート面塗装工	
	1-3-12	プレテンション桁製作工	
		(購入工)	
		(けた橋)	24
		プレテンション桁製作工	24
		(購入工)	
		(スラブ桁)	
	1-3-13	ポストテンション桁製作工	
		プレキャストセグメント製作工(購入工)	25
	1-3-14	プレキャストセグメント主桁組立工	

第1章 一般施工

章、節	条	枝番	頁
第3節 共通的工種	1-3-15	PCホロースラブ製作工	
		R C場所打和ースラブ製作工	
		P C 版桁製作工	25
	1-3-16	PC箱桁製作工	
		PC片持箱桁製作工	
		PC押出し箱桁製作工	
	1-3-17	根固めブロックエ	
	1-3-18	沈床工	26
	1-3-19	捨石工	20
	1-3-22	階段工	
	1-3-24	伸縮装置工	
		(ゴムジョイント)	
		伸縮装置工	
		(鋼製フィンガージョイント)	
		伸縮装置工	
		(埋設型ジョイント)	
	1-3-26	多自然型護岸工	
		(巨石張り、巨石積み)	
		多自然型護岸工	27
		(かごマット)	
	1-3-27	羽口工	
		(じゃかご)	
		羽口工	
		(ふとんかご、かご枠)	
	1-3-28	プレキャストカルバートエ	
		(プレキャストボックスエ)	
		(プレキャストパイプエ)	
	1-3-29	側溝工	
		(プレキャストU型側溝)	
		(コルゲートフリューム)	
		(L型側溝工)	
		(L型街渠工)	
		(LO型街渠工)	
		(自由勾配側溝)	
		(管(函)渠型側溝工)	28
		(管渠)	
		排水構造物修繕工	
		(プレキャストU型側溝・管(函)渠)	
		場所打水路工	
		暗渠工	
	1-3-30	集水桝工	
	1-3-31	現場塗装工	
第4節 基礎工	1-4-1	一般事項	
		(床掘工)	
		一般事項	
		(切込砂利)	<u>_</u> _
		(砕石基礎工)	_ _
		(割ぐり石基礎工)	
		(均しコンクリート)	29
	1-4-3	基礎工(護岸)	
		(現場打)	
		<u> </u>	
		基礎工(護岸)	\dashv
		(プレキャスト)	
		<u>、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、</u>	
		// //////	

第1章 一般施工

77.7	章、節	条	枝番	頁
第4節	基礎工	1-4-4	既製杭工	
			(既製コンクリート杭)	
			(鋼管杭)	
			(H鋼杭)	29
			既製杭工	29
			(鋼管ソイルセメント杭)	
		1-4-5	場所打杭工	
		1-4-6	深礎工	
		1-4-7	オープンケーソン基礎工	
		1-4-8	ニューマチックケーソン基礎工	
		1-4-9	鋼管矢板基礎工	
第5節	石・ブロック積(張)エ	1-5-3	コンクリートブロックエ	
			(コンクリートブロック積)	
			(コンクリートブロック張り)	30
		1-5-4	緑化ブロックエ	
		1-5-5	石積(張)工	
		1-5-3	コンクリートブロックエ	
			(連節ブロック張り)	
			コンクリートブロックエ	
			(天端保護ブロック)	
第6節	一般舗装工	1-6-7	下層路盤工	
		アスファルト舗装工	上層路盤工(粒度調整路盤工)	
			セメント(石灰)安定処理工	
		1-6-8	セメント(石灰・瀝青)安定処理工	
		半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工	31
			基層工	
		1-6-9		
		排水性舗装工		
		l		
		1-6-11		
		グースアスファルト舗装工		
			アスファルト中間層	
		1-6-12	コンクリート舗装版工	
		コンクリート舗装工 	転圧コンクリート版工	
		1 0 10		32
		1-6-13		
		薄層カラー舗装工		
		1 6 14		
		1-6-14		
		ブロック舗装工 1-6-10	 透水性舗装工	
		-0-10 透水性舗装工	(路盤工)	
		20小 住 研 表 上	透水性舗装工	1
			(表層工)	33
		1-6-15	(衣眉工) 路面切削工	33
		1-6-16	時間切削工 舗装打換え工	
		1-6-17	オーバーレイエ	
		1-0-17	<u>/</u> 一ハーレイエ	

第1章 一般施工

第 1 早 一 板 加 工	条	枝番	頁
第6節 一般舗装工	1-6-7	下層路盤工(面管理の場合)	_~
		上層路盤工(粒度調整路盤工)(面管理の場合)	.,
	1-6-8	セメント(石灰)安定処理工(面管理の場合)	34
	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)	1
	1-6-9	基層工	
	排水性舗装工		
	1-6-11	表層工	35
	グースアスファルト舗装工		00
	1-6-10	透水性舗装工(路盤工)(面管理の場合)	
	透水性舗装工	透水性舗装工(表層工)(面管理の場合)	
	1-6-12	コンクリート舗装版工	
	コンクリート舗装工		36
	1-6-15	路面切削工(面管理の場合)	
the whole the second second	1-6-17	オーバーレイエ(面管理の場合)	
第7節 地盤改良工	1-7-2	路床安定処理工 	
	1-7-3	置換工	ļ
	1-7-5 1-7-6	パイルネットエ サンドマットエ	
	1-7-7	バーチカルドレーンエ	1
		(サンドドレーンエ)	37
		(ペーパードレーンエ)	1
		<u>- 、 、 </u>	
	1-7-8	締固め改良工	
		(サンドコンパクションパイルエ)	l
	1-7-9	固結工	
		一 (粉体噴射攪拌工)	
		(高圧噴射攪拌工)	
		(スラリー攪拌工)	
		(生石灰パイルエ)	
		固結工	
		(スラリー攪拌工)3次元計測による管理の場合	
		固結工	
		(中層混合処理)	
第10節 仮設工	1-10-5	土留・仮締切工	
		(H鋼杭)	38
		【(鋼矢板)	
		土留・仮締切エ	
		(アンカーエ)	
		土留・仮締切工	
		(連節ブロック張り工)	1
		土留・仮締切工 (締切盛土)	
		土留・仮締切工	1
		工笛・似柳切工 (中詰盛土)	
	1-10-9	地中連続壁工(壁式)	
	1-10-10	地中連続壁工(柱列式)	-
	1-10-22	法面吹付工	39
上 第12節 工場製作工 共通	1-12-1	鋳造費□金属支承工)	40
		鋳造費(大型ゴム支承工)	40
		仮設材製作工	A 4
		刃口金物製作工	41

第1章 一般施工

	章、節	条	枝番	頁
第12節	工場製作工 共通	1-12-3	桁製作工	
			(仮組立による検査を実施する場合)	42
			(シュミレーション仮組立検査を行う場合)	43
			桁製作工	43
			(仮組立検査を裏施しない場合)	43
			桁製作工	44
			(鋼製ダム製作工(仮組立時))	44
		1-12-4	検査路製作工	
		1-12-5	鋼製伸縮継手製作工	
		1-12-6	落橋防止装置製作工	
		1-12-7	橋梁用防護柵製作工	45
		1-12-8	アンカーフレーム製作工	
		1-12-9	プレビーム用桁製作工	
		1-12-10	鋼製排水管製作工	
		1-12-11	工場塗装工	
第13節	橋梁架設工	1–13	架設工 (鋼橋)	
			(クレーン架設)	
			(ケーフ゛ルクレーン架設)	
			(ケーブルエレクション架設)	
			(架設桁架設)	
			(送出し架設)	
			(トラベラークレーン架設)	
			架設工 (コンクリート橋)	46
			(クレーン架設)	
			(架設桁架設)	
			架設支保工	
			(固定)	
			(移動)	
			架設桁架設	
			(片持架設)	
			(押出し架設)	
第14節	法面工 共通	1-14-2	植生工	
			(種子散布工)	
			(張芝工)	
			(筋芝工)	
			(市松芝工)	
			(植生シートエ)	47
			(植生マットエ)	47
			(植生筋種子帯工)	
			(人工張芝工)	
			(植生穴工)	_
			植生工	
			(植生基材吹付工)	
		1-14-3	(客土吹付工) 吹付工	
		1-14-3	火いエ (コンクリート)	
			(コンケリート) (モルタル)	
		1-14-4	(モルタル)	-
			法件工 (現場打法枠工)	48
			(現場打法件工) (現場吹付法枠工)	10
			(現場吸的法件工) 法枠工	-
			広代エ (プレキャスト法枠エ)	
		1-14-6	アンカーエ	┥
		1, 14,0	/ · · // -	

別表 2

第1章 一般施工

章、節	条	枝番	頁
第15節 擁壁工 共通	1-15-1	場所打擁壁工	
		コンクリート擁壁エ	
	1-15-2	プレキャスト擁壁エ	
	1-15-3	補強土壁工	49
		(補強土(テールアルメ) 壁工法)	49
		(多数アンカー式補強土工法)	
		(ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	
	1-15-4	井桁ブロックエ	
第16節 浚渫工 共通	1-16-3	浚渫船運転工	
		(ポンプ浚渫船)	
		浚渫船運転工	
		(グラブ船)	
		(バックホウ浚渫船)	50
		浚渫船運転工(面管理の場合)	
		(グラブ船)	
		(バックホウ浚渫船)	
第18節 床版工	1-18-2	床版工・横組工	

【第4編 河川編】

第1章 築堤護岸工

章、節	条	枝番	頁
第1節	1-1	河川幅	
第7節 法覆護岸工	1-7-4	護岸付属物工	
第8節 水制工	1-10-8	杭出し水制工	51
第13節 光ケーブル配管エ	1-13-3	配管工	
	1-13-4	ハンドホールエ	

第3章 樋門・樋管

章、節	条	枝番	頁
第3節 樋門・樋管本体工	3-5-6	函渠工	
		(本体工)	
		函渠工	
		(ヒューム管)	51
		(PC管)	
		(コルゲートパイプ)	
		(ダクタイル鋳鉄管)	
	3-5-7	翼壁工	52
	3-5-8	水叩工	JZ

第4章 水門

章、節	条	枝番	頁
第6節 水門本体工	4-6-7	床版工	
	4-6-8	堰柱工	
	4-6-9	門柱工	52
	4-6-10	ゲート操作台エ	
	4-6-11	胸壁工	

別表 2

第5章 堰

	章、節	条	枝番	頁
第6節	可動堰本体工	5-6-13	閘門工	
		5-6-14	土砂吐工	
第7節	固定堰本体工	5-7-8	堰本体工	
		5-7-9	水叩工	52
		5-7-10	土砂吐工	
第8節	魚道工	5-8-3	魚道本体工	
第7節	管理橋下部工	5-9-2	管理橋橋台工	

第6章 排水機場

章、節	条	枝番	頁
第4節 機場本体工	6-4-6	排水機場本体工	52
		吐出水槽工本体工	32
	6-4-7	排水機場	
		燃料貯油槽工	53
第5節 沈砂池工	6-5-7	排水機場	55
		コンクリート床版工	

第7章 床止め・床固め

章、節	条	枝番	頁
第4節 床止め工	7-4-6	本体工	
		(床固め本体工)	53
	7-4-8	水叩工	55
第5節床固め工	7-5-6	側壁工	

【第5編 砂防編】

第1章 砂防堰堤

章、節	条	枝番	頁
第3節 工場製作工	1-3-4	鋼製堰堤仮設材製作工	
第8節 コンクリート堰堤工	1-8-4	コンクリート堰堤本体工	
		コンクリート副堰堤エ	
	1-8-6	コンクリート側壁エ	
	1-8-8	水叩工	54
第9節 鋼製堰堤工	1-9-5	鋼製堰堤本体工	
		(不透過型)	
		鋼製堰堤本体工	
		(透過型)	
	1-9-6	鋼製側壁工	55

第2章 流路

章、節	条	枝番	頁
第5節 床固め工	2-5-8	魚道工	55

第3章 斜面対策

	章、節	条	枝番	頁
第6節	山腹水路工	3-6-4	山腹明暗渠工	
第7節	地下水排除工	3-7-4	集排水ボーリングエ	55
		3-7-5	集水井工	55
第9節	抑止杭工	3-9-6	合成杭工	

【第6編 ダム編】

第1章 コンクリートダム

章、節	条	枝番	頁
第4節 ダムコンクリートエ	1-4	コンクリートダムエ	
		(本体)	
		コンクリートダムエ	56
		(水叩)	30
		コンクリートダムエ	
		(副ダム)	
		コンクリートダムエ	57
		(導流壁)	37

第2章 フィルダム

章、節	条	枝番	頁
第3節 盛立工	2-3-5	コアの盛立	
	2-3-6	フィルターの盛立	
	2-3-7	ロックの盛立	57
	2	フィルダム (洪水吐)	
		(洪水吐)	

第3章 基礎グラウチング

章、節	条	枝番	頁
第3節 ボーリングエ	3-3	ボーリングエ	57

【第7編 道路編】

第1章 道路改良

章、節	条	枝番	頁
第3節 工場製作工	1-3-2	遮音壁支柱製作工	
第9節 カルバートエ	1-9-6	場所打函渠工	
第11節 落石雪害防止工	1-11-4	落石防止網工	58
	1-11-5	落石防護柵工	30
	1-11-6	防雪柵工	
	1-11-7	雪崩予防柵工	

別表 2

第1章 道路改良

章、節	条	枝番	頁
第12節 遮音壁工	1-12-4	遮音壁基礎工	58
	1-12-5	遮音壁本体工	50

第2章舗装

章、節	条	枝番	頁
第4節舗装工	2-4	歩道路盤工	
		取合舗装路盤工	
		路肩舗装路盤工	
		歩道舗装工	59
		取合舗装工	
		路肩舗装工	
		表層工	
第5節 排水構造物工	2-5-9	排水性舗装用路肩排水工	
第6節 縁石工	2-6	中央分離帯工	
第7節 踏掛版工	2-7-4	踏掛版工	
		(コンクリートエ)	
		(ラバーシュー)	
		(アンカーボルト)	
第9節 標識工	2-9-4	大型標識工	
		(標識基礎工)	
		大型標識工	60
		(標識柱工)	
第12節 道路付属施設工	2-12-5	ケーブル配管エ	
		ケーブル配管エ	
		(ハンドホール)	
		電線共同溝	
		(ハンドホールエ)	
	2-12-6	照明工	
		(照明柱基礎工)	

第3章 橋梁下部

	章、節	条	枝番	頁
第3節	工場製作工	3-3-3	鋼製橋脚製作工	
第6節	橋台工	3-6-8	橋台躯体工	61
第7節	RC橋脚工	3-7-9	橋脚躯体工	
			(張出式)	
			(重力式)	
			(半重力式)	
			橋脚躯体工	62
			(ラーメン式)	02
第8節	鋼製橋脚工	3-8-9	橋脚フーチングエ	
			(I型・T型)	
			橋脚フーチングエ	
			(門型)	
		3-8-10	橋脚架設工	
			(I型・T型)	
			橋脚架設工	63
			(門型)	
		3-8-11	現場継手工	

第4章 鋼橋上部

章、節	条	枝番	頁
第3節 工場製作工	4-3-9	橋梁用高欄製作工	
第5節 鋼橋架設工	4-5-10	支承工	
		(鋼製支承)	63
		支承工	
		(ゴム支承)	
第8節 橋梁付属物工	4-8-1	地覆工	
	4-8-3	落橋防止装置工	
	4-8-6	橋梁用防護柵工	64
	4-8-7	橋梁用高欄工	
	4-8-8	検査路工	

第5章 コンクリート橋上部

	章、節	条	枝番	頁
第6節	プレビーム桁橋エ	5-6-2	プレビーム桁製作工 (現場)	64

第6章 トンネル(NATM)

章、節	条	枝番	頁
第4節 支保工	6-4-3	NATM	
		吹付工	
	6-4-4	NATM	
		ロックボルトエ	
第5節 覆工	6-5-3	NATM	
		覆エコンクリートエ	
	6-5-4	側壁コンクリートエ	
第6節 インバートエ	6-5-5	NATM	65
		床版コンクリートエ	
	6-6-4	NATM	
		インバート本体工	
第8節 抗門工	6-8-4	NATM	
		抗門本体工	
	6-8-5	NATM	
		明り巻工	

第11章 共同溝

章、節	条	枝番	頁
第6節 現場打構築工	11-6-2	共同溝	
		(現場打躯体工)	
	12-5-4	電線共同溝	
		(現場打ボックスエ)	
		(特殊部)	
	11-6-4	共同溝	
		(カラー継手工)	
	11-6-5	共同溝	66
		(防水工)	
		共同溝	
		(防水保護工)	
		共同溝	
		(防水壁)	
第7節 プレキャスト構築工	11-7-2	共同溝	
		プレキャスト躯体工	

第12章 電線共同溝

	章、節	条	枝番	頁
第5節	電線共同溝工	12-5-2	管路工	
			(管路部)	
		12-5-3	プレキャストボックスエ	67
			(特殊部)	
第6節	付帯設備工	12-6-2	ハンドホールエ	

第14章 道路維持

章、節	条	枝番	頁
第3節 舗装工	14-3-5	切削オーバーレイエ	
		切削オーバーレイエ(面管理の場合)	68
	14-3-7	路上再生工	

第16章 道路修繕

章、節	条	枝番	頁
第3節 工場製作工	16-3-4	桁補強材製作工	69

【第8編 下水道編】

章、節	条	枝番	頁
第1章 開削工	8-1-1	管路掘削	
		管路埋戻	
	8-1-2	管布設	
		(自然流下管)	
		短形渠	1
		(プレキャスト)	
		圧送管	70
	8-1-3	砂基礎	70
		 砕石基礎	1
		コンクリート基礎	1
		まくら土台基礎	1
			1
	8-1-4	現場打水路	1 '
	8-1-5	鋼矢板土留	1
第2・3章 小口径推進工・推進工	8-2-1	推進工	
	8-2-2	空伏工	1
第4章 シールドエ	8-4-1	掘進工	71
	8-4-2	二次履工	/ '
第5章 管渠更生工	5-3-1	管渠内面被覆工 反転・形成工法	1
	5-3-2	管渠内面被覆工 製管工法	
第6章 マンホールエ	8-6-1	標準マンホールエ	
		標準マンホール基礎工	72
	8-6-2	組立マンホールエ	12
	8-6-3	小型マンホールエ	
第7章 特殊マンホールエ	8-7-1	現場打ち特殊人孔	
	8-7-2	伏せ越し室・雨水吐室工	1
	8-7-3	伏せ越し管工	1
	8-7-4	越流堰(雨水吐室)	1
		中継ポンプ施設	73
第8章 取付管及びますエ	8-8-1	公共ます	
	8-8-2	取付管	
第11章 立坑工	8-11-1	立坑工	
	8-11-2	立坑土工	

別表 2

【第9編 公園緑地編】

章、節	条	枝番	頁
第2章 植栽	9-2-2	植栽工	
		高木(H=3.0m以上)	
	9-2-3	植栽工	
		中低木(H=3.0m未満)	74
	9-2-4	植栽工	/4
		特殊樹木	
	9-2-5	植栽工	
		地被類	

【第10編 治山編】

章、節	条	枝番	頁
第3章 山腹工	10-3-1	山腹線的緑化工	
		(筋工、柵工等)	
		(木柵工等)	
	10-3-2	山腹面的緑化工	
		(吹付工、伏工、植栽工等)	
	10-3-3	山腹水路工	
		(張芝、土壌水路工等)	
	10-3	ロープネットエ	
第5章 自然林造成・改良	10-5-1	植栽工	
		(緑化工)	
		大苗	
		中苗	
	10-5-2	植栽工	
		(緑化工)	75
		小苗	
	10-5-3	支柱	
	10-5-4	張芝工	
		(広場造成)	
第5章 森林整備	10-5-5	植栽工(森林整備)	
	10-5-6	枝落し	
	10-5-7	本数調整伐	
	10-5-8	雪起し	
	10-5-9	下刈・つる切り	
	10-5-10	除伐	
	10-5-11	作業歩道 (W≦50cm)	
	10-5-12	作業歩道 (W>50cm)	
	10-5-13	作業車道	

【第11編 林道編】

章、節	条	枝番	頁
	11 – 1	林道土工	76

【第12編 土地改良編】

章、節	条	枝番	頁
	12-1	水路トンネル	
		(支保工)	
		(コンクリート覆工)	
	12-2	防護柵	1
	12-3	管水路	
	10 1	(RC管、PC管)	77
	12 — 4	管水路 (株)	
	12 – 5	(鋳鉄管、強化プラステック複合管)	4
	12-5	管水路(西暦ちんぱー・川笠)	
	12-6	(硬質塩化ビニール管) 管水路基礎	-
	12 – 7	目が好差症	
	12 /	U字溝BF水路	
	12-8	に場整備農地開発	1
		組立柵きょエ	
	12-9	ほ場整備土水路工	1
	12-10	ほ場整備農地開発土砂道	1
	12-11	敷砂利	1
	12-12	ほ場整備整地工	1
		(水田)	
	12-13	ほ場整備整地工	78
		(畑地)	/8
	12-14	ほ場整備畦畔工	
	12-15	 ほ場整備農地開発	1
		暗渠排水工	
	12-16	農地造成	
		(山成畑)	
	12-17	農地造成	
		(テラス)	
	12-18	土壌改良	
	12-19	表面被覆工	
	12-20	目地補修工	
	12-21	頭首工	
		(本体)	
	12-22	頭首工	79
		(護床(異形)ブロック)	1
	12-23	ため池改修工	
	10 04	(堰体工)	
	12-24	ため池改修工	
	12-25	(洪水吐工)	
	12-25	ため池改修工(樋管工)	
		「随官工 <i>」</i> 同上付帯構造物	
		円工刊 市博垣初 土砂吐ゲート等	
	12-26	- 工砂セケートサー 共通工事	1
		(UAV出来形管理技術及びTLS出来形管理技術の場合)	
		は場整備工事	1
		(UAV出来形管理技術及びTLS出来形管理技術の場合)	80
		共通工事	1
		(出来形管理用TS技術の場合)]
		ほ場整備工事	
		(出来形管理用TS技術の場合)	.[
		管水路工事	
		(出来形管理用TS技術の場合)	<u> </u>
		塗装標準被膜厚	81

- 3 1	番	号	工 種	測定項目	規 格 値	医 単	測 定 箇 所	摘 要
第	第	2-3-2	掘削工	基準高▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。		
2 章	3 節			$\ell < 5 \text{ m}$		†		
土工	河川			法 長 0		基準高は掘削部の両端及び中心 の3点で測定しその平均値とす		
	土			ℓ ≧ 5 m		5.		
	工 ・			延 長 L	-200	ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工	(\	
	砂防					編」の規定により測点管理を 行った場合は、1工事につき1		
	土工					管理断面を測定。		
	1							
		2-3-2	掘削工		平均値 温測値	1. 3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術		
		2-3-2	1/四月リユ.		平均恒 計測値	を用いた出来形管理要領(案) 土工編 多点計測技術(面管理の		
			(面管理の場合)	平場標高較差	±50 ±150	場合)」に基づき出来形管理を 面管理で実施した場合、その他	 ● 天端部の計測点 	
				法面 水平または 標高較差	±70 ±160	本基準に規定する計測精度・計 測密度を満たす計測方法により	○ 法面部の計測点	
				100000		出来形管理を実施した場合に適用する。	計測密度 平面積 1点/m2	
						2. 個々の計測値の規格値には	平園楼「鳥/雨」	
						計測精度として±50mmが含まれ ている。	\(\frac{1}{2}\)	
						3. 計測は1工事1断面とし、		
						平場上または天端上の任意の箇 所で3次元設計データの設計面	That	
						と実測値との標高格差、水平格 差を確認する。	The state of the s	
							(NEW)	
							平場	
					正地は 個々の	1. 3次元データによる出来形		
		2-3-2	掘削工		平均値計測値	C/11. /CIII/K/D B-LX K/		
			(水中部)	平場標高較差	±50 ±300	河川浚渫工編 」に基づき出来形 管理を面管理で実施した場合、		
			(面管理の場合)	法面 水平または 押点飲ぎ	±70 ±300	その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法		
				標高較差	_10000	により出来形管理を実施した場 合に適用する。		
						2. 個々の計測値の規格値には		
						計測精度として±100mmが含まれている。		
						3. 計測は1工事1断面とし、		
						任意の箇所で3次元設計データ の設計面と実測値との標高格差		
						を確認する。		
		2-3-3	盛土工	基 準 高 ▽	-50	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		
						基準高は、各法肩で測定。	w,	
				ℓ < 5 m	-100	ただし、「3次元計測技術を用	w ₂	
				法 長 ℓ ℓ ≥ 5 m		いた出来形管理要領(案)土工 編 計測技術(断面管理の場		
					-100	_合)」の規定により測点管理を 行った場合は、1工事につき1	1511151	
						管理断面を測定。	HSUISU	
				延 長 L	-200	4		

-	番	号	工種	湘山	定	項目	規	格	値	を 単規格値 測 定	(単似n 基	準	測	定	筃	所	摘	要
		Þ	盛土工	例	疋	供 口	戏	竹	胆	1. 3次元デー			侧	た	卣	ולו	1問	安
第 2 章 土	第3節河	2-3-3	(面管理の場合)				平均值	且 言	固々の 計測値	管理において を用いた出来 土工編 多点計	「3次元 形管理要 測技術	計測技術 領(案) (面管理の	• 天端部の計	明点・シー	111	11		
ェ	Ш			天		標高較差	-50	_	-150	場合) 」に基へ 面管理で実施し	した場合	、その他	・法面部の計	明点 人	'.A.A.			
	± H·			法 4割<	面 勾配	標高較差	-50		-170	本基準に規定す 測密度を満たす 出来形管理を到	ナ計測方:	法により	計測密度 平面積 1点/		1			
	砂 防			法 4割≧		標高較差	-50		-170	用する。 2. 個々の計測	則値の規	格値には				×		
	± ±			配は、	鉛直:	ここでの勾 方向の長さ 、水平方向				計測精度としている。	< ±50mm;	が含まれ						
					X を	X割と表し				3. 計測は1			F71 F7	1/ 1	****	N/A		
										平場上または 所で3次元設計	計データ	の設計面			天端	-00		
										と実測値との札 差を確認する。	票局格差.	、水平格				1		
													小段			1/2		
		2-3-4	盛土補強工	基	準	高 ▽	,	-50		施工延長100m	につき 1	箇所以上						
		2-3-4	(補強土 (テールアル	厚		<u>t</u>		0~-E		測定。								
			メ)壁工法)	控	え	長き	設計	計値以	以上	基準高は、各組	去肩で測	定。	7			3		
			(多数アンカー式補強土 工法)										/		=	t t		
													/					
			(ジオテキスタイルを用 いた補強土工法)															
			法面整形工(盛土部)	F		.	\.	. ·	0	施工延長100m	につき 1	箇所以 ト						
		2-3-5	14回走/17工(強工的)	厚	č	<u>₹</u> t	*	% −3	U	測定。	Je 1	- 回川 - 以上						
										厚さは、法の中	中央で測	定。		t 🗸		+		
										※土羽打ちのお	ある場合	に適用。	t			<i>K</i> *		
														119	11511			
										Harrie Co.	1- 2	Marie						
		2-3-6	堤防天端工	厚さ	t	t < 15cm		-25		施工延長100m 測定。	につき 1	箇所以上						
				1년		t ≧15cm		-50		厚さは、1000r	na毎に道!	路中心線	ŀ	v	ur .	+		
				幅		W	-	-100)	で1箇所以上》	則定。		ئىر			i = t		
													/					
																`		

出来形檢查基準規格值(単位mm)

_			l	1.					準規格				T					
	番	号	工種	測	定巧	目	規格	各 値	0.4	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
第 2 章	節	2-4-2	掘削工	基	準	\$ ▽	±	50	施工延長測定。									
± ±	道路土				Q	< 5 m	-2	200	基準高は で測定。 ただし、				_			75		
	Ī			法 長	e				にし、 いた出来 編 計測技	形管理 技術(断	要領 (案 面管理(き) 土工 の場		2 7				
					Q	≧ 5 m	法長·	-4%	行った場 管理断面	合は、	1 工事に							
				幅		W	-1	100										
				延	長	L	-2	200										
		2-4-2	掘削工 (面管理の場合)				平均値	個々の 計測値	1.3次 管理に 生工編 場合)」	いて「3 出来形管 多点計測	3 次元計 管理要領 技術(i	測技術 (案) 面管理の						
				平場	,楞	高較差	±50	±150	場合 面管理準 連定 連定 連定 連定 を 連定 を を を を を を を を を を を を を	実施する 規定する 満たすま	る場合、 る計測精 計測方法	その他 痩・計 により	天端部の計法面部の計					
				法(小段	14	平また標高較	±70	±160	用する。 2. 個々 計測精度	の計測値	直の規格	§値には	計測密度 平面積 1点/	m2				
				含む)		差			ている。 3. 計測									
					I)は を	平また 標高較 差	±70	±330	平場上ま 所で3次 と実測値 差を確認	元設計ラ	データの	設計面						
														TE V	平場	1111		

	番	号	工種	測定	項目		70 (灰 <u>且 2</u> 各	と準規格値(単位mm)測 定 基 準	測	定簡	所	摘	要
第		2-4-3	路体盛土工					施工延長100mにつき1箇所以上	例	た 自	121	3101	女
2	4		路床盛土工	基準	高▽	±	:50	測定。					
章土	節道	2-4-4	始 於 盤 上 上		ℓ < 5 m	-1	100	基準高は、道路中心線及び端部 で測定。	t	√/ \			
主	路土			法 長 〔	2				t _//	<i>]</i> /- `	# t		
	호				0 ≧ 5 m	法長	-2%	ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工	_//				
				幅	W 1, W 2		100	編 計測技術(断面管理の場合)」の規定により測点管理を					
								行った場合は、1工事につき1 管理断面を測定。					
				延	長 L		200						
			76/11-75-1				1						
		2-4-3	路体盛土工			平均値	個々の	1. 3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術					
						一一一	計測値	を用いた出来形管理要領 (案) 土工編 多点計測技術 (面管理の	● 天端部の計測	<u> </u>	11		
			(面管理の場合)	天端	標高較差	±50	±150	場合)」に基づき出来形管理を 面管理で実施する場合、その他	◦法面部の計測	# <i>[[////]</i>			
				法面				本基準に規定する計測精度・計 測密度を満たす計測方法により	計測密度				
				(小段 含む)	標高較差	±80	±190	出来形管理を実施する場合に適 用する。	平面積 1点/m2		K		
								2. 個々の計測値の規格値には					
								計測精度として±50mmが含まれている。					
								3. 計測は1工事1断面とし、		7 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	W.		
								平場上または天端上の任意の箇	<i>√</i> □ <i>⁄</i>	Ali Lessa I			
								所で3次元設計データの設計面 と実測値との標高格差、水平格	/ 小殿		\mathcal{N}		
								差を確認する。	1/		V		
								佐工灰目100m/よっき 1 佐託以上					
		2-4-5	法面整形工 (盛土部)	厚	さ t	*-	-30	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。		w,			
								厚さは、法の中央で測定。					
								※土羽打ちがある場合に適用。		1//>	1		
										±0.√ℓ			
									<u> </u>	ISHSHISH			
第	第		Am I		nn			図面の寸法表示箇所で、任意の				・重要構	造物か
3	7	3-7-4	組立て	平 均	間 隔 d	±	φ	部分を測定。				つ主鉄筋	につい
章無	節鉄			かぶ	り t	±	φ					橋梁コ	ンク
筋	筋			111- 25-	<i>9</i> ι	かつ最小だ	かぶり以上	d = D / (n-1)				リート床(PC橋	含む)
· 鉄	I							D:n本間の長さ	·+-	******		の鉄筋には、第3	編1-
筋コ												18-2 床片 組工を適	
ン								n:10本程度とする			D	る。 ・新設コ	
クリ								φ:鉄筋径				リート構(橋梁上	造物
Ì								最小かぶりは、コンクリート標				部工およ構造物で	び重要
۲								準示方書(設計編:標準 7編2章 2.1)参照。ただし、道路橋示方				空断面積	25㎡以
								書の適用を受ける橋については 道路橋示方書(Ⅲコンクリート				上のボッルバート	(工場
								橋・コンクリート部材編5.2) による。				製作のプ スト製品	
												の工種に 対象外)	
												筋の配筋びかぶり	状況及
												ては、「	非破壊
												試験によ	構造物
												中の配筋 びかぶり	測定要
												領」を適 る。	
												(品質管 目)	理項

	177	п	- **	Strai	. 		基準規格但 (単位mm)	No. 1 de toto	1-4-
<u> </u>	番	号	工種	測	定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
第 1	第 3	1-3-4	矢板工〔指定仮設・任意	基	準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	0	
章	節共		仮設は除く〕	根	入 長	設計値以上		→ ¹	
般施	通的		(鋼矢板)	変	位 0	100		1350	
工	工		(軽量鋼矢板)					NSIST	
	種		(コンクリート矢板)					-	
			(広幅鋼矢板)						
			(可とう鋼矢板)					7	
				7:15	E 1	900	施工延長100mにつき 1 箇所以上		
		1-3-5	縁石工 (縁石・アスカーブ)	延	長 L	-200	測定。 ただし、「3次元計測技術を用		
							いた出来形管理要領 (案) 舗装 工編 計測技術 (断面管理の場		
							合)」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
						78 71 May 1	基礎10基につき1箇所以上測		
		1-3-6	小型標識工	設 直	高さ H 幅 w		定。		
				.	(D)	-30			
				基礎	高 さ h	-30			
					根入れ長	設計値以上			
		1-3-7	防止柵工	基礎	幅 w	-30	延長100mにつき1箇所以上測 定。	w w	
			(立入防止柵)	25/42	高さh	-30	単独基礎の場合は、20基につ	h	
			(転落(横断)防止柵)	パイ	プ取付高	+30	き1箇所以上測定。		
					Н	-20			
			(車止めポスト)			-30			※なお、補修
				パイこ	プ根入れ長	+20		H	工事は除く
									14 10 M
					幅 w	-30	延長100mにつき 1 箇所以上測	W	
		1-3-8	烙側防護柵工	基礎	売さh	-30	定。 単独基礎の場合は、20基につ		
			(ガードレール)		回でⅡ		き 1 箇所以上測定。 延長100mにつき 1 箇所以上測	h	
				ピー	ム 取 付 高 H		定。		
						-20		۵	※なお、補修
				パイコ	プ根入れ長	-30		=5	工事は除く
						+20		H	
								TIBIBIIB	
			路側防護柵工		幅 w	-30	端末基礎10基につき1箇所以 上測定。		※ワイヤー ロープ式防護
			(ガードケーブル)	基礎	高 さ h	-30	中間基礎は、ガードレール基礎 を適用する。		柵にも適用す る
				L	延長L	-100			
				ケーン	ブル取付高	+30	延長100mにつき 1 箇所以上測 定。	w I	※なお、補修
					Н	-20		$\stackrel{W}{\longleftrightarrow}$	工事は除く
					0.1-	-30		<u> </u>	
				バイン	プ根入れ長	+20		H	
		1.0.0	反兩領工	厚	き t		各線種毎に、1ヶ所テストピー フにより測定		
		1-3-9	区画線工		強式のみ)	設計値以上	スにより測定		
				幅	W	設計値以上			
				高	» ځ h	±30	50本につき1本以上測定。		
		1-3-10	道路付属物工	同	e n	±30		ÑŢ	
			(視線誘導標)					h	
			(距離標)					 *	

Ε.	πZ.	П	工 任	加宁五口	出来形筷金		W	Act and
第	番第	号	工種	測定項目	規格値 鋼道路橋防食便覧	測 定 基 準 塗料系ごとの塗装面積を算出・	測 定 箇 所	摘要
71章一般施工	73節共通的工種	1-3-11	コンクリート面塗装工	塗料使用量	照-82「東-III、55 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	無関査して、各塗料の必要量を求め、途付作業の開始前に搬乃量(充任数)と途付作業が作業終して、各本必要量以上であることを確認し、各本必要量以上であることを確認して、カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・カール・		
		1-3-12	プレテンション桁製作工	桁 長 L(m)	± L/1000	図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。	F	規格値のLに代 入する数値はm
		1 3 12	(購入工)	断面の外形寸法	±5	橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使	년 중	単位の数値
				橋桁のそり	±8	用する場合は、製造工場の発行 するJISに基づく試験成績表	<u> </u>	
			(けた橋)	δ ₁ 横方向の曲がり	±10	にかえることができる。 JIS製品以外はJIS製品に		
				δ 2	_10	準じる。		
					±10···	図面の寸法表示箇所で、任意の		規格値のLに代
			プレテンション桁製作工	I/m P	I.≤10m	部分を測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使		入する数値はm 単位の数値
			(購入工)	桁 長 L (m)	± L / 1000···	用する場合は、製造工場の発行 するJISに基づく試験成績表	and the second s	
			(スラブ桁)			にかえることができる。 JIS製品以外はJIS製品に		
				Mercure - Allow A. I.N.		準じる。		
				断面の外形寸法				
					±8			
				(東)/ 同 (ク) m // ・ り δ 2	±10			
					1.10	図面の寸法表示箇所で、任意の		規格値の ℓ に
		1-3-13	ポストテンション桁製作 工	幅 (上) w ₁	+10	部分を測定。 横方向タワミの測定は、プレス	. Wı	代入する数値は m単位の数値
				- / - >	-5	トレッシング後に測定。 なお、JISマーク表示品を使	- 1	
				幅 (下) w ₂	±5	用する場合は、製造工場の発行 するJISに基づく試験成績表		
				高 さ h	+10	にかえることができる。 ℓ:支間長		
					-5			
				桁 長 0	$\ell < 15 \cdots \pm 10$		h	
				TII X 6	ℓ≥15···			
				+ pp 1	± (ℓ-5)			
				支 間 長	かつ-30mm以内		k—→ W2	
				横方向最大タワミ	0.80		VV 2	
	1		1	Κ.	1	Ī	İ	

				m. 4. ~ -	ı	基準規格値(単位mm) 	Sur	
Ь	番	号	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第1章一般施	第3節共通的	1-3-13	プレキャストセグメント 製作工(購入工)	桁 長 ℓ 断面の外形寸法		図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。。		
工	5工種	1-3-14	プレキャストセグメント 主桁組立工		<pre>e<15…±10 e≥15…± (e-5) かつ-30mm以内 0.8e</pre>	図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。 解分の製定は、プレス トレッシング後に測定。桁断面 寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3箇所。 む:支間長		規格値の Q に 代入する数値 はm単位の数値
		1-3-15	PCホロースラブ製作工 RC場所打ホロースラプ製作工 PC版桁製作工	基 準 高 ▽ 幅 W ₁ , W ₂ 厚 さ t	±20 -5~+30 -10~+20 &<15···±10 &≥15··· ± (ℓ-5) かつ-30mm以内	図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所 (支点付近)で、1 箇所当たり 両端と中央部の3点、幅及び厚 さは1 径間当たり両端と中央部 の3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準につい ては、第3 編1-18-2 床版・横組 足に準ずる。 0: 桁長	t W1	規格値の 0 に 代入する数値は m単位の数値
		1-3-16	P C 箱桁製作工P C 片持箱桁製作工	基 準 高 ▽ 幅 (上) w ₁ 幅 (下) w ₂ 内 空幅 w ₃ 高 さ h ₁ 内空高さ h ₂	±20 -5~+30 -5~+30 ±5 +10 -5 +10 -5 0<15···±10 0≥15···± (0-5) かつ-30mm以内	図面の寸注表示箇所で、任意の 部分を測定。 基準高は、1 径間当たり2 箇所 (支点付近)で、1 を所当たり 両端と中央部の3 点、幅長び厚 さは1 径間当たり両端と中央部 の3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準につい ては、第3 編1-18-2 床版・横組 足に準ずる。 0: 桁長	hı Wi	規格値の 0 に 代入する数値は m単位の数値
			P C 押出し箱桁製作工	幅 (上) w ₁ 幅 (下) w ₂ 内 空 幅 3 高 さ h 1 内空高さ h 2		図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。 部分を測定。 析断面寸法測定個所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編1-18-2 床版・模組工に準ずる。 &: 桁長	h_1 W_1 W_5 W_2	規格値の 0 に 代入する数値は m単位の数値

:	番	号	工 種	測	定項目	規格値	基準規格値 (単位mm) 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘	要
第	第	1-3-17	根固めブロック工		基準高▽	±100	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。			
章	3節::			層	厚さ t	-20	幅、厚さは100個につき1箇所測 定。	層積		
般	共通,			積	幅w ₁ , w ₂	-20		[w,]		
施工	的工				延長 L 1, L	-200				
	種				2		施工延長100mにつき1箇所以上 測定。			
				乱積	基準高▽	± t/2	0.00	· =0-0- 0 -		
					延長 L ₁ , L	- t /2		】 乱積		
								elite en		
							Viene Control of the Control	↑ <u> </u>		
		1-3-18	沈床工	基	単 高 ▽	±150	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。			
				幅	W					
				延	長 L	-200		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
				基道	車 高 ▽	-100	施工延長100mにつき 1 箇所以上	1		
		1-3-19	捨石工	福	₽ FI ∨ W	-100 -100	測定。			
				延	長 L					
		1-3-22		幅	w	-30	10段につき1箇所以上測定。	Ī		
		1 0 22	FB (A. T.	高	き h	-30				
				長	さ L	-30		h		
				段	数	±0段		T		
								w		
							10段につき1箇所以上測定。		立体横断	描記
					, 19	± 3	1 0 秋に 70 1 回川 外上側た。	<u> </u>	に適用コンクリ	
				けあ	げ高 h				打放に適	f用
						± 30		│	適用 立体横断	
				踏み	、幅 B	± 3 ± 10	-	h	に適用 コンクリ	—
				甲が	- יי⊞ D	± 30			打放に適 その他階	
						_ 50			適用	

	_			No. 1	ı	室中		
	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第1章一	第3節共	1-3-24	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	±3	車道端部及び中央部付近で任意 の部分を測定。 表面の凸凹は長手方向(橋軸直 角方向)に3mの直線定規で測っ	← 車線方向 →	
般	通			表面の凹凸	3	て凸凹が3mm以下。	仕上げ高 高さ	
施工	的工			仕上げ高さ	舗装面に対し		舗装面──▼据付け高	
	種				-2~0		HID TOC TITL	
		1-3-24	伸縮装置工	据付け高さ	±3	高さについては、車道端部、中 央部のうち任意の部分を車線方 向に測定。	★ 橋軸方向	
			(鋼製フィンガージョイ ント)	高さ 橋軸方向 各点誤差 の相対差	3	表面の凸凹は、長手方向(橋軸 直角方向)に3mの直線定規で 測って凸凹が3mm以下。 歯咬み合い部は、車道端部、中 央部のうち任意の部分を測定。	V V V V V V V V V V V V V V V V V V V	
				表面の凹凸	3		A 歯型板面の歯咬み	
				歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	2		W ₂ あい部の高低差: 咬みあい部中心A,	
				歯咬み合い部の 縦方向間隔W ₁	±2		B点の差 C _r L	
				歯咬み合い部の 横方向間隔W ₂	±5		舗装面 仕上げ高さ	
				仕上げ高さ	舗装面に対し -2~0		あと打ちコンクリート	
		1-3-24	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面の凹凸	3	高さについては、車道端部、中 央部のうち任意の部分を車線方 向に測定。	枫岭为河	
			(全成王2371317)	仕上げ高さ	舗装面に対し 0~+3	表面の凸凹は、長手方向(橋軸 直角方向)に3mの直線定規で 測って凸凹が3mm以下。	嫌続面 仕上げ高さ	
		1-3-26	多自然型護岸工	基 準 高 ▽	±500	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		
		1 0 20	(巨石張り、巨石積み)	法 長 0	-200			
			(巨有)成为、巨相镇9为	延 長 L	-200			
				法 長 0	-100	施工延長100mにつき1箇所以上		
			多自然型護岸工	厚 さ t	-0. 2 t	測定。		
			(かごマット)	延 長 L	-200		I.	
					200			
		1-3-27	羽口丁.	法長 ℓ < 3 m	-50	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		
			(じゃかご)	ℓ	-100		Į,	
			(0 (% 2)	厚 さ t	-50			
						施工延長100mにつき1箇所以上	Lı	
		1-3-27	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高 さ h	-100	測定。		
				延長 L ₁ , L ₂	-200	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		
		1-3-28	プレキャストカルバート エ	基 準 高 ▽	±30	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。 ※印は、現場打部分のある場合。	L L	
			(プレキャストボックス 工)	※ 幅 w	-50			
			(プレキャストパイプ工	※ 高 さ h	-30		h w h	
				延 長 L	-200		r1	
_	•				•			•

	亚	号	T 毎	油	少 佰 日				等 中	迎 ウ 然 示	4ebr	##f
Ь.	番	ラ	工 種	伿	定項目		規格値		測 定 基 準 施工延長100mにつき1箇所以上	測 定 箇 所	摘	要
第1章一般施工	第3節共通的工種	1-3-29	側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリューム) (L型側溝工) (L型街渠工) (L0型街渠工) (自由勾配側溝) (管(函) 渠型側溝工) (管渠) 排水構造物修繕工 (プレキャストU型側溝・管(函) 渠)		準 高延長L	∇	±30 -200		別定。			
			場所打水路工	基	準 高	∇	±30		施工延長100mにつき1箇所以上 則定。			
				厚さ	t 1,	t 2	-20			t, W t ₂		
				幅		w	-30			h ₁ h ₂		
				高さ	h 1,	h 2	-30					
				延	長	L	-200					
								1	施工延長100mにつき1箇所以上			
			暗渠工	基	準 高	∇	±30	ì	則定。	₩,		
				幅	w 1,	w 2	-50		なお、製品使用の場合の寸法 は、規格証明書等による。			
				深	ż	h	-30			h h		
				延	長	L	-200			W ₂		
										F 1		
		1-3-30	集水桝工	-	準 高	∇	±30		10箇所につき1箇所以上測 定。	t, <u> </u>		
					\$ t₁^		-20		※印は、現場打部分のある場 合。	w, t4		
				※幅	W ₁ ,		-30			t ₁		
				※ 向 の	¥ h₁,	n ₂	-30			h, hz		
										t,		
		1-3-31	現場塗装工	塗	膜	厚	厚平均値は、E 塗膜厚合計値の 90%以上。	語の	金装終了時に測定する。 1 ロットの大きさは500㎡とす 3。 1 ロット当たりの測定数は5点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が 200㎡に満たない場合は50㎡ごと こ1点とする。			

	-			$\overline{}$	Mil de are a			基準規格値(単位mm)	Structure data		
	番	号	工種		測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘	要
第 1 章	第 4 節	1-4-1	一般事項	基	準高	∇		施工延長100mにつき1箇所、それ以下の場合は、1施工箇所につき1箇所以上測定。			
_	基		(床掘工)		幅		-100	施工延長100mにつき 1 箇所以上			
般施	礎工	1-4-1	一般事項	幅		W	設計値以上	脚上延長100mにつき 1 固別以上 測定。			
エ			(切込砂利)	厚	5	t	-30				
			(砕石基礎工)	延	長	L	各構造物の規格 値による。		t mes		
			(割ぐり石基礎工)				厄による。				
			(均しコンクリート)						₹ ₩		
				<u> </u>				施工延長100mにつき1箇所以上			
		1-4-3	基礎工 (護岸)	基	準高	∇		測定。	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
			(現場打)	幅		W	-30				
			笠コンクリート工	高	<u> </u>	h	-30		h h		
				延	長	L	-200				
				#	淮 =		+ 20	施工延長100mにつき1箇所以上			
			基礎工 (護岸)	基延	準高	√	±30	測定。			
			(プレキャスト) 笠コンクリートエ	延	長	L	-200				
			(プレキャスト)								
			and the Later of t	基	準高	∇	±50	5本につき1箇所以上測定。	. — п		
		1-4-4	既製杭工	根	入	長	設計値以上		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
			(既製コンクリート杭)								
			(鋼管杭)	偏	心量	d	D/4以内かつ 100以内				
			(H鋼杭)	傾		斜	1/100以内				
						4-1	-,,,,,,,,		U U U U J		
			既製杭工 (鋼管ソイルセメント	基	準 高	∇	±50	5本につき1箇所以上測定。	п		
				根	入	長	設計値以上	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
			杭)	_							
				偏	心量	d	100以内				
				傾		斜	1/100以内		H		
				杭		径	設計径以上		0 0 0 0 1		
		1-4-5	場所打杭工	基	準 高	∇	±50	5本につき1箇所以上測定。			
				根	入	長	設計値以上		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
				/E	, =	1	10001-				
				偏	心量	d	100以内		□ <u> </u>		
				傾		斜	1/100以内		п *		
				杭		径	{設計径(公称 径)-30}以上		0000		
				基	準 高	∇	生50	5本につき1箇所以上測定。	<u> </u>		
		1-4-6	深礎工	基根	入	->	設計値以上	※ライナープレートの場合はその内	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
				偏	 心 量	d	150以内	径、補強リングを必要とする場合は補強リングの内径とし、モルタ			
				傾	10: 里	斜	1/50以内	ルライニングの場合はモルタル等の 土留め構造の内径にて測定。	H		
					基礎径 D		設計径		*		
					авжета: И		(公称径)以上				
	_			_		_				_	

			- ~	301 A T T		基準規格値(単位mm)	Ni de de	1-4-	
		号	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準 2基につき1箇所以上測定。	測定箇所	摘	要
1	第 4	1-4-7	オープンケーソン基礎工	基準高▽	±100	△ 巫に ノご 1 固別以上側疋。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$		
	節基	ļ ,		ケーソンの長さ	-50	ļ			
般施工	礎工	ļ ,		ケーソンの幅 w	-50	ļ	t h t t t		
工	_	ļ ,		ケーソンの高さ h	-100	ļ			
		l ,		ケーソンの壁厚 t	-20]	a 🔾		
		ļ ,		偏心量d	300以内]	() / <u>I</u> y		
		ļ ,				1	H x		
		1- 4 0		基 準 高 ▽	±100	2基につき1箇所以上測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$	†	
		1-4-8	ニューマチックケーソン 基礎工	ケーソンの長さ	-50	1	<u>u-√x - y</u>		
		l ,		ケーソンの幅	-50	1			
		l ,		w ケーソンの高さ	-100	1			
		ļ ,		h ケーソンの壁厚	-20	1	d Comment		
		l ,		t 偏 心 量 d	300以内		<u></u>		
	1	ļ ,		_ == u	->// 1		×		
	1	<u> </u>	Programme I I	基 準 高 ▽	±100	5本につき1箇所以上測定。		 	
	1	1-4-9	鋼管矢板基礎工	基 準 高 V 根 入 長			$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	Ì	
	1	ļ į		根 人 長偏 心 量 d	300以内		G=VX ∓ ÿ ²		
	1	ļ į		_{мы} л. 里 d	900KM				
		l ,		 	<u> </u>	ļ	—————————————————————————————————————		
		l ,			! !	ļ	ŬŲŽ.		
	笋	\sqsubseteq	<u> </u>	# * -	. 50	施工延長100mにつき1箇所以上	ж "	<u> </u>	
	第 5 節	1-5-3	コンクリートブロック工			測定。	t, t ₂		
	即石	l ,	(コンクリートブロック積)	法 長 0 < 3 m		ļ			
	・ブ	ļ ,	(コンクリートブロック張り)	ℓ ≥ 3 m厚さ (ブロック	-100	ļ			
		1-5-4	緑化ブロック工	(積・張)、石積・	! !	ļ			
	ク 積	1-5-5	石積(張)工	張) tı	! !	ļ	t ₁ t ₂ t ₂		
	(張)	l ,			-50	ļ	t, t2		
	近	ļ ,			1	ļ			
	_	ļ ,				ļ	/ t./\/		
	ا ا	ļ ,		厚さ(裏込) t ₂	-50	ļ	L made and		
		l ,		延 長 L	-200	ļ	tz		
		<u> </u>			 				
		1-5-3	コンクリートブロックエ	基 準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	L		
		l ,	(連節ブロック張り)	法 長 0	-100	ļ			
		ļ ,		延長 L1, L2	-200	ļ			
		ļ ,]			
		l ,			!	ļ	L 2		
		l ,			! !	ļ			
		ļ ,	コンクリートブロックエ	基 準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	w		
		ļ ,	(天端保護ブロック)	幅 w	-100]	Pilitaかご		
		l ,	√√≥Ⅲ/小唆ノ ビツグ)	極 長 L	-200	1	- W		
		ļ ,		Æ K L	200	1	連結ブロック		
		l ,			! !	ļ			
ш	ш		<u> </u>			<u> </u>			

_	_		2011	個々の		各 値 10個の	測定値			
番	号	工種	測定項目		小規模以下		P均 小規模 以下	測定基準	型 定 箇 所 	摘要
第6節一般舗装		下層路盤工	基準高▽ 厚 さ	±40	±50 -45 -50	- -15 -	- -15 -	基準高は延長100mに1箇所の割 とし、道路中心線および端部で 測定。 幅は、延長200mに1箇所の割で 測定。 厚さは各車線400m毎に1箇所を 測定。		アスファルト舗ま 半たわみ性舗装 排水性舗装 コンクリート舗装
工	1-6-8 半たわ み性舗 装工									(転圧コンクリート 薄層カラー舗 ブロック舗装
	1-6-9 排水性 舗装工	上層路盤工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25 -50	-30 -50	- 8	- 8	幅は、延長200mに1箇所の割と し、厚さは各車線400m毎に1箇 所を測定。		
	1-6-11 ゲースアス ファルト舗 装工	セメント(石灰)安定	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長200mに1箇所の割と し、厚さは、右記により測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割 合で規格値を満足しなければならないととも	アスファルト舗
	1-6-12 コンク リート舗 装工	処理工	幅	-50	-50	_	_	し、序では、有地により80元。	□ C、10個の測定値の平均値(X10)について 満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個末満の場合は測定値の平均値 は適用しない。 ①コア採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷 を与える恐れのある場合は、他の方法による ことが出来る。	半たわみ性舗: 排水性舗装 薄層カラー舗: ブロック舗装
	1-6-13 薄層カ ラー舗 装工	セメント (石灰・瀝 青) 安定処理工	厚さ	-15	-30	-5	-7	幅は、延長200mに1箇所の割と し、厚さは、右記により測定。	②維持工事及び1車線林道においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 ③厚さ管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはしない 150~1000㎡未満 N=1個以上 1000㎡毎に N=1個以上 (例 1001㎡は、2箇所を測定)	コンクリート舗コンクリート
	1-6-14 ブロック 舗装工	inship or or and 1 their	幅	-50	-50	_		据比 赵目200m/71 第至79年1	④厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。	工 (転圧コリート版工)
		加熱アスファルト安定 処理工	幅	-15 -50	-20 -50	_5 _		幅は、延長200mに1箇所の割とし、厚さは、右記により測定。		半たわみ性舗装 が一スアスファルト舗装 が一スアスファルト舗 薄層カラー舗 ブロック舗を
		基層工	厚さ幅	-9 -25	-12 -25	_3 	-4 -	幅は、延長200mに1箇所の割とし、厚さは、右記により測定。		アスファルト舗半たわみ性舗排水性舗装が一スアスアテルト舗 薄層カラー舗 ブロック舗装

出来形檢查基準規格值(単位mm)

1-6-7 京 京 京 京 京 京 京 京 京	150㎡未満 コアの抜取りはし	半たわみ性舗装工 ののも対値 排水性舗装工 クースアスフィル/舗装工 損傷 よる 薄層カラー舗装				
番 号 工 種 測定項目	は、個々の測定値が10個に9個以上 格値を満足しなければならないと 他の測定値の平均値(X10)につ なければならない。ただし、厚さ 数が10個未満の場合は測定値の平 はない。 採取について 非装等でコアー採取により床版等に る恐れのある場合は、他の方法に 出来る。 工事及び1車線林道においては、 目を省略することが出来る。 管理が表表	の割とも かいて、のかいで、のから均値 排水性舗装工 デースアスワスルに舗装 損傷 まる				
第 6 1-6-7	接値を満足しなければならないと 個の測定値の平均値(X10)、厚き 数が10個未満の場合は測定値の平 まない。 接取について 服装等でコアー採取により床版等に る恐れのある場合は、他の方法に 3出来る。 「王事及び1車線林道においては、 1目を省略することが出来る。 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし	半たわみ性舗装 半たわみ性舗装 が一スアスファルト舗装 工債傷 よる 薄層カラー舗装				
1-6-7 中部	接値を満足しなければならないと 個の測定値の平均値(X10)、厚き 数が10個未満の場合は測定値の平 まない。 接取について 服装等でコアー採取により床版等に る恐れのある場合は、他の方法に 3出来る。 「王事及び1車線林道においては、 1目を省略することが出来る。 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし	半たわみ性舗装工ののも対値 排水性舗装工 がニスアスファルト舗装 損傷 よる				
ロー	たければならない。ただし、厚き数が10個未満の場合は測定値の平しない。 採取について 接取について 接等でコアー採取により床版等に あ恐れのある場合は、他の方法に 出来る。 (目を省略することが出来る。 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし	の 対値 排水性舗装工 ゲースアスファル・舗装				
施 舗 表	採取について 接等でコア一採取により床版等に る恐れのある場合は、他の方法に 出来る。 F工事及び1車線林道においては、 1目を省略することが出来る。 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし	グースアスファルト舗装工 損傷 滞層カラー舗装工				
エ	接等でコアー採取により床版等に こる恐れのある場合は、他の方法に 出来る。 〒工事及び1 車線林道においては、 1目を省略することが出来る。 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし	損傷 まる 薄層カラー舗装				
1-6-8 半たわ み性舗 装工 1-6-9 排水性 舗装工 アスファルト中間層 厚 さ -9 -12 -3 -3 幅は、延長200mに1箇所の割と し、厚さは、右記により測定。 ④厚さ 写真及	F工事及び1車線林道においては、 ほ目を省略することが出来る。 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし	平坦				
***********************************	: 管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはし					
1-6-9 排水性 舗装工 厚 さ -9 -12 -3 -3 幅は、延長200mに1箇所の割と し、厚さは、右記により測定。 4原さ 写真及	150㎡未満 コアの抜取りはし					
1-6-9	③厚さ管理基準 150㎡未満 コアの抜取りはしない 150∼1000㎡未満 N=1個以上 1000㎡毎に N=1個以上					
排水性 舗装工 幅 -25 -25 - - 「日本 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	(例 1001㎡は、2箇所を測	定) コンクリート舗装3				
コンクリート舗装版丁 厚	: の確認 : び管理データにかえることができ	コンクリート舗 装工 (転圧:				
		ンクリート版 T1				
		コンクリート舗装工				
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
装工 コンパリートの硬化後、 幅は、延長200m毎に1ヶ所の割 幅は、延長200m毎に1ヶ所の割						
3mプロフィルメータにより で関連。 平垣生は各単級群に版 縁から1mの線上、全延長とす 機械舗設の場合: る。						
1-6-12						
リート舗 標準偏差(σ)3mm以下 1測線当たり横断方向に3ヶ所以上路盤の基準高を測定し、測						
定打設後に各車線400m毎に両側 の版端を測定する。						
延長100mにつき、1箇所以上隣 目						
線及び端部で測定。 1-6-14 転圧コンクリート版工 厚 さ -15 -4.5 -4.5 厚さは、各車線の中心付近で型						
1-6-14 WAICH 2009 FINAL FF						
舗装工 断方向に3ヶ所以上測定、幅 転圧コンクリートの は、延長80m毎に1ヶ所の割で 製造 250mm						
硬化後、3mプロフィル 測定、平坦性は各車線毎に版縁 から 1 mの線上、全延長とす る。						
メータにより標準 編差(a) 2. 4mm以下。						
延長100mにつき、1 箇所以上隣接する目地に対して、道路中心線及び端部で測定。						

小規模とは、表層及び基層のアスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m²未満

出来形検査基準規格値(単位mm)

			ı		1			規 格							1						
						-		規	,,]										
å	番	号	エ	種	測;	定項目	個々の	測定値		測定値 F均	測	定	基	準		測	定	籄	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
第 1	第 6	1-6-10	透水性舗装工		基準		±	50	-	-	の割合で液	毎に1箇所	※歩道舗	i装に適	i用する。						
章	節一	透水性 舗装工	(路盤工)		厚	t <15cm	_	30	_	10	厚さは、片側延長400m毎に1箇 所を測定。 幅は、片側延長200m毎に1箇所測										
般 施	般舗				さ	t ≧15cm	_	45	_	15	定。	则延迟	OOIII 71,F	(二) 面房(例							
工	装工					幅	-	100													
	1.		透水性舗装工		厚	さ	-9	-3	-9	-3	幅は、片値割で測定。	則延長2	00m毎	に1箇所の	※歩道舗	博装に遙	i用する。				
			(表層工)			幅	-25	_	-25	_	厚さは、月 所を測定。		₹400m	毎に1箇							
		1-6-15	路面切削工		厚	さ	_	-7	-	-2	厚さは100 舗装高さり	m毎に1 刃削後の	箇所 基準	以上、現 高の差で			6				
						幅	_	25	-	_	算出する。幅は、延					_	Ĩ		_		
											上測定。 断面状況~					/-					
											さを変える測定方法に	は、自重	助横断			`	現舗を		_		
											よることだ	が出来る	5.								
		1-6-16	舗装打換え工		路	幅 W	-!	50	-	50	幅・延長に 所以上、名										
					盤	延長 L	-1	.00		.00	定。	L / L / April	- 1 (2)	// S/15/1		Ťľ	_				
					工	厚さ t		工種		工種						w		_	77		
					舗	幅 W		25		25						∔Ļ			_]↓*		
					設工	延長 L		00	1	.00						-		L	-		
		1_6_17	オーバーレイ	r'	厚	厚さ t さ t		工種 -9		工種	厚さは100	m毎に	現舗装	長高とオー							
		1-0-17	A - 7 - PA -	L	存帽			25		25	バーレイ行する。測定						P				
						長 L	-1	.00	-1	.00	道端及びるは、延長2	その中心	ふとす	る。幅			İ				
								3mプロフ	イルメータ	7	する。 断面状況~	で、間隔	鬲、測.	点数を変	± .	4,697			1207		
							標準	準偏差 (c	7) 2.4mm	以下	えることだ	が出来る	5.		t	1 //~	l i		1827		
					平	坦 性		直読式((足付き)							-	現舗	类w			
					,			標準偏差	芝 (a)						6#: ±±= == ±	r) - 4×1 ×	- 14 j	T7 +D kH- a	の項目も少較十		
								1. 75m							維持工事			←坦1生0	の項目を省略す		
*	T #	規模の考	63± ±	担性しい	1 図 1/2	たりの施工	一番様式の	000 21	1 ししナフ												
**	上手	アルバスタング	ラヘル 中	が代とし	、四日日	/こり ジル旭工	- 田/貝//³乙,	OUUIII D	ハー こりる		a. 4. 44. 4				2						

小規模とは、表層及び基層のアスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m²未満

					山木加	ククタングラング	"华况价"	直(単位mm)							
					規	各値	Î.								
番	号	工種	測定項目		測定値	値の	の測定 平均	測定基準		測	定	笛	所	摘	要
				中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下								
第 第 1 6 章 質	う アスファ ルト舗	下層路盤工 (面管理の場合)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案) 舗装工編 多点計測技術(面管理						半たれ	アルト舗装工
一般 船	装工		厚さあるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	の場合)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準 に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形						排水	性舗装工
	I 1-6-8 半たわ							管理を実施した場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には 計測精度として±10mmが含まれ							
	み性舗 装工							ている。 3. 基準高、厚さあるいは標高 格差の計測は1工事につき1断							
								面とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と 当該層の標高値との差で算出す							
	1-6-9 排水性 舗装工							る。 5. 厚さを標高較差として評価 する場合は、直下層の目標高さ +直下層の標高較差平均値+設 計厚さから求まる高さとの差と							
	1-6-11	上層路盤工	厚さあるいは	-54	-64	-8	-10	する。 1. 3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術							アルト舗装工
	グースアス ファルト舗 装工	(粒度調整路盤工)	標高較差					を用いた出来形管理要領(案) 舗装工編 多点計測技術(面管理 の場合)」に基づき出来形管理							み性舗装工 性舗装工
		(面管理の場合)						を実施する場合、その他本基準 に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形 管理を実施した場合に適用す							
								る。 2. 個々の計測値の規格値には 計測精度として±10mmが含まれ ている。							
								3. 厚さあるいは標高格差の計 測は1工事につき1断面とす る。							
								4. 厚さは、直下層の標高値と 当該層の標高値との差で算出す る。							
								5. 厚さを標高較差として評価 する場合は、直下層の標高さ +直下層の標高較差平均値+設 計厚さから求まる高さとの差と							
		セメント (石灰) 安定 処理工	厚さあるいは 標高較差	-54	-64	-8	-10	1.3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案)							アルト舗装工
								舗装工編 多点計測技術(面管理 の場合)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準						排水	性舗装工
		(面管理の場合)						に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形 管理を実施した場合に適用す							
								る。 2. 個々の計測値の規格値には 計測精度として±10mmが含まれ ている。							
								3. 厚さあるいは標高格差の計 測は1工事につき1断面とす る。							
								4. 厚さは、直下層の標高値と 当該層の標高値との差で算出す る。							
								5. 厚さを標高較差として評価 する場合は、直下層の目標高さ 十直下層の標高較差平均値十設 計厚さから求まる高さとの差と する。							
		加熱アスファルト安定 処理工	厚さあるいは 標高較差	-36	-45	-5	-7	1. 3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案)							アルト舗装工
		(Mary			I		I	舗装工編 多点計測技術(面管理 の場合)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準						1	性舗装工スファルト舗装工
		(面管理の場合)						に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形 管理を実施した場合に適用す						, ,,,,	· · / // · i · i · i · i · · · · · · · ·
								る。 2. 個々の計測値の規格値には 計測精度として±10mmが含まれ ている。							
								ている。 3. 厚さあるいは標高格差の計 測は1工事につき1断面とす る。							
								る。 4. 厚さは、直下層の標高値と 当該層の標高値との差で算出す る。							
								5. 厚さを標高較差として評価 する場合は、直下層の目標高さ +直下層の標高較差平均値+設 計厚さから求まる高さとの差と							
								する。							
Ж Т	事規模の		に、1層当たりの施コ に、表層及び基層の					00t未満あるいは施工面積が2,00	00m ² 未満						

出来形檢查基準規格値(単位mm)

	出来形検査基準規格値(単位mm) 規 格 値													l .	
1						規	各 値	[_						
衤	番	号	工 種	測定項目	個々の	測定値		の測定 平均	測定基準	測	定	笛	所	摘	要
					中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下							
第 1 章		1-6-7 アスファ	基層工	厚さあるいは 標高較差	-20	-25	-3	-4	1. 3次元データによる出来形 管理において「3次元計測技術 を用いた出来形管理要領(案)					アスファル 半たわみ	
一般施工	一般舗装工	ルト舗 装工	(面管理の場合)						舗装工編 多点計測技術(面管理 の場合)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準 に規定する計測精度・計測密度 管理を実施した場合に適用す る。					排水性症	
		1-6-8 半たわ み性舗 装工							 個々の計測値の規格値には 計測精度として±10mmが含まれ ている。 厚きあるいは標高格差の計 測は1工事につき1断面とす る。 						
		1-6-9 排水性 舗装工							4. 厚さは、直下層の標高値と 当該層の標高値との差で算出す る。 5. 厚さを標高較差として評価 する場合は、直下層の目標高さ +直下層の標高較差平均値+設 計厚さから求まる高さとの差と						
			表層工	厚さあるいは 標高較差	-	20	-:	20	する。 1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術	維持工事に することがと		、平坦性	の項目を省略	アスファル 半たわみ	
		1-6-11 ゲースアス ファルト舗 装工	(面管理の場合)	平坦性		2.4m 直読式(足	//-ター(σ) m以下 :付き)(σ mm以下		を用いた出来形管理要領(案) 舗装工編 多点計測技術(面管理 の場合)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準 に規定する計測特度・計測密度 を満たす計測方法により出来形 管理を実施した場合に適用す る。					排水性	舗装工
									2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 厚さあるいは標高格差の計測は1工事につき1断面とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出すして評価である。 5. 厚さを標高較差として評価さりる場合は、直下層の標高を差として評価さいる。 1. 原言を標高較差として評価さいる場合は、直下層の標高較差ととの差とする場合は、直下層の表音を表						
	•	1-6-10 透水性 舗装工	透水性舗装工 (路盤工) (面管理の場合)	基 準 高 ▽ F	-	50 64 91		10 15	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測特別で、計算を消失により出来形管理を実施した場合に適用する。						
			透水性舗装工 (表層工)	厚さあるいは 標高較差	-	20	-	-3	2. 個々の計測値の規格値には 計測精度として±10mmが含まれ ている。 3. 基準高、厚さあるいは標高 格差の計測は1工事につき1断 面とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と 当該層の標高値との差で算出す る。						
		規模の考	(面管理の場合)	は、1層当たりの施コ					5. 厚さを標高教差として評価 する場合は、直下層の目標高さ +直下層の標高教差平均値+設 計厚さから求まる高さとの差と する。						

中規模とは、1層当たりの施工面積が2,000m²以上とする。 小規模とは、表層及び基層のアスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m²未満

		1		1		/ 便	华 况价	値(単位mm)						
					規	各値	[
番	号	工 種	測定項目	個々の	測定値		の測定 平均	測定基準	測	定	笛	所	摘	要
				中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下							
第1章一般施工第6節一般舗装工		コンクリート舗装版工 (面管理の場合) 路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚さ tのみ	厚標 平 坦 性 段 さ 差 順幅	3 標準 標準 - (1 (面管理と	機械舗設 lu lu lu lu lu lu lu lu lu lu lu lu lu	3-9により (の場合:) 2.4mmJ (の場合: σ)3mm以	以下	1. 3次元紀 (1) (1) (1) (1) (2) (2) (2) (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	維持工事にはすることがは	出来る。	平たんだ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		コンクリー	一下緒装工
	1-6-17	オーバーレイエ (面管理の場合)	厚さあるいは差 標 高 較 差 平 坦 性	標準	進偏差(a 直読式(ィルメータ () 2.4mm	以下	1. 3次元データによる出来形管理において、「3で大計測技術を用いた出来が管理要領(第)理要領(第)理数には、13で、13で、13で、13で、13で、13で、13で、13で、13で、13で						

※ 工事規模の考え方

中規模とは、1層当たりの施工面積が2,000m²以上とする。 小規模とは、表層及び基層のアスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m²未満

第3編 土木工事共通編

出来形檢查基準規格值(単位mm)

			_		出米形恢宜基	準規格値(単位mm)		
i	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第	第	1-7-2	路床安定処理工	基 準 高 ▽	±50	延長100mにつき1箇所以上測	-	
1 章	7 節			施工厚さ t	-50	定。 基準高及び厚さは、道路中心線	€ 	
_	地			幅 w	-100	- 及び端部で測定。		
般施	盤改			延 長 L	-200	「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)表層安定処理		
I	良					等・固結工 (中層混合処理)	t	
	I					編」による管理の場合は、全体 改良範囲図を用いて、施工厚さ	w	
						t、天端幅w、天端延長Lを確認 (実測は不要)。	1	
		1-7-3	置換工	基 準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上		
				置換厚さ t	-50	測定。 基準高及び厚さは、中心線及び	©	
				幅 w	-100	端部で測定。		
				延 長 L	-200	-		
						-	w	
							t	
							w	
							<u> </u>	
		1-7-5	パイルネット工	基 準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	G	
				厚 さ t	-50	基準高及び厚さは、中心線及び	€ i	
				幅 w	-100	端部で測定。	į įw	
				延 長 L	-200	杭については、該当杭の項目に 準ずる。		
						- / 20	n n l	
		1-7-6	サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長100mにつき1箇所以上	Ę,	
				幅 w	-100	測定。 厚さは中心線及び端部で掘り起	^t	
				延 長 L	-200	こして測定。		
							w	
						100またのま1 傑元四 1 測点		
		1-7-7	バーチカルドレーン工	位置·間隔w	±100	100本につき1箇所以上測定。 杭径は1箇所につき2本測定。	析径D	
			(サンドドレーン工)			ただし、ペーパードレーンの杭 径は対象外とする。	├── ₩	
			(ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン		mm mi atom t		T P 7 T	
		_	工)	杭 径 D	設計値以上		w	
		1-7-8	締固め改良工					
			(サンドコンパクション パイル工)	Let vi E V	20,21 H201 I	1040 - Ad Mar NI I Miles	Ĭ <u></u> ,	
			, ,	打 込 長 さ h	設計値以上	10本につき1箇所以上測定。		
				袋詰式サンドド レーン、サンドコ		10本につき1箇所以上測定。	h	
				ンパクションバイ		計器管理にかえることができる。		
				ルの砂投入量	_			
							※余長は適用除外	
1			1					

「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)表層安定処理 等・中間地盤改良工事編」によ る管理の場合は、全体改良範囲 図を用いて、施工厚さt、幅 w、延長Lを確認(実測は不 要)。 第 1-10-5			1		出来形検査基	準規格値(単位mm)			
□		号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘	要
□		1-7-9	因結丁	基 準 高 ▽	-50				
接触 (株田・		1 , 3							
1-7-9 回転工									
1-7-9 協計工							↑ (c. 1		
1-7-9			(スラリー攪拌工)	深 度 L	設計値以上	10本につき1箇所以上測定。			
1-7-9 超越工			(生石灰パイル工)			L=01-02			
1-7-9 回誌工						01は改良体先端深度			
1-10-5 上部・仮練切工 日 一10-5 上部・仮練切工 日 一10-5 上部・仮練切工 日 一10-5 上部・仮練切工 日 一10-5 上部・仮練切工 上 上 上 上 上 上 上 上 上						02は改良端天端深度	w		
1-7-9 10 本に									
(スラリー接棒工) 「3 本元計機技術を用いた以外形響を強調(会) 「2 本元計機技術を用いた以外形響を強調(会) 「2 本元計機技術を用いた以外形響を強調(会) 「2		1 7 0	四分子	# * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	ADL I.	杭芯位置管理表により基準高を			
1-10-5 土留・仮締切工 ()		1-7-9	固結上	基 準 尚 ∨	0以上				
□ 1-10-5 上留・仮締切工			(スラリー攪拌工)				C. L.		
た出来管理要領 (案) 提供 上			「3次元計測技術を用い	<i>占</i> 學	D \ O N IA		The August G. L.		
大					D/ 05/11	施工した杭芯位置との距離を確			
放 径 D 設計値以上 工事毎に1回 加工前の指針製の寸法実際により 1-7-9 国籍工									
9 確認 (相配しによる実態機能 1 を						工事毎に1回			
1-10-5 1-10-5				杭 径 D	設計値以上	施工前の撹拌翼の寸法実測によ	<u>* * </u>		
本語 1-10-5 上留・仮締切工				W E 2	KII EXIL				
1-10-5 上留・仮締切工 技 準 高 マ 設計値以上 100									
1-7-9 国結工									
1-7-9 届結工				改艮長L	設計値以上	り確認(掘起しによる実測確認			
1-10-5 上留・仮締切工 技 単 高 マ 一100 施工が表100mにつき1 箇所以上 測定。 1-10-5 上留・仮締切工 上留・仮締切工 上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・仮締切工 上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上記・上									
(中層混合処理) 施工厚さ t 設計値以上 上調定。 施工厚さは施工時の改良深度確認と出来形とする。 第 と		1-7-9	固結工	基準高▽	設計値以上		CI.		
深度 L 設計値以上 認を出来形とする。			(中層混合処理)	施工厚さ t	設計値以上		j.		
深 度 L 設計値以上 認を出来形とする。 「3次元計規特を用いた出来 「3次元計規特を用いた出来 「3次元計規特を用いた出来 下途理要領(案)表層女定処理 等・中間地盤は及工事編 による管理の場合は、全体の良範囲 以				幅 w	設計値以上	施工厚さは施工時の改良深度確			
第 1-10-5				深度L	設計値以上	認を出来形とする。			
第・中間機能改良工事論」による管理の場合に、全体改良維囲図を用いて、施工厚さけ、幅 W 延長 L を確認 (実測は不要)				N	KII EXT	「3次元計測技術を用いた出来	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
第 1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽ ±100 基準高は施工延長100mにつき1 1 0 mg 大阪・仮締切工 1 0 0 mg 大阪・仮修切工 1 0 0 mg 大阪・仮修切工 1 0 0 0 mg 大阪・仮修切工 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0							! t		
第 1-10-5						る管理の場合は、全体改良範囲			
第 1-10-5 土留・仮締切工 (日鋼杭) 根 入 長 設計値以上 (任意仮設は除く) 根 入 長 設計値以上 (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (日本につき1箇所以上測定。 (任意仮設は除く) (日本につき1箇所以上測定。 (日本の経り工 (連節プロック張り工) 法 長 セ 100 (日本の経り工 (連節プロック張り工) 法 長 セ 100 (日本の経り工 (本の経り工 (年) (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り工 (日本の経り) (日本の経り工 (日本の経)工 (日本の経り工 (日本の経)工 (日本の経)工 (日本の経)工 (日本の経)							\langle		
1 10 5 上留・仮締切工 (H鋼杭) 根 入 長 設計値以上 (任意仮設は除く) (任意仮設は除く) (研奏板)						要)。	13		
(日鋼杭) (鋼矢板) 根 入 長 設計値以上 (任意仮設は除く) (研矢板)		1-10-5	土留・仮締切工	基準高 ▽	±100		- 1/ \- \-//		
(鋼矢板) (鋼矢板) (鋼矢板) (鋼矢板) ((鋼矢板) ((鋼矢板) ((((((((((((((((((((H鋼杭)	根 入 長	設計値以上				
設工			(鋼矢板)						
1-10-5 土留・仮締切工							lill		
(アンカーエ) 配置 誤差 d 100 (任意仮設は除く) 1-10-5 土留・仮締切工 (連節プロック張り工) 法 長 ℓ −100 加工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。 1-10-5 土留・仮締切工 (締切盛土) 実端 幅 w −100 大端 幅 w −100 法 長 ℓ −100 上記 (任意仮設は除く)		1-10-5	十留・仮締切工	削孔深さ0	設計深さ以上	10本につき1箇所以上測定。	d 📐		
1-10-5					100	(任意仮設は除く)			
1-10-5 土留・仮締切工 (連節プロック張り工) 法 長 ℓ −100 延長 L 1, L 2 −200 近長 L 1, L 2 −200 加工延長100mにつき 1 箇所以上 (締切盛土) 基 準 高 ▽ −50 加定。 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ −100 加工延長100mにつき 1 箇所以上 (統切盛土) 本 本 高 ▽ −50 加定。 (任意仮設は除く)			(/ 2 // ±/	配 邑 趴 左 4	100		() y		
1-10-5 土留・仮締切工 (連節プロック張り工) 法 長 ℓ −100 延長 L 1, L 2 −200 近長 L 1, L 2 −200 加工延長100mにつき 1 箇所以上 (締切盛土) 基 準 高 ▽ −50 加定。 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ −100 加工延長100mにつき 1 箇所以上 (統切盛土) 本 本 高 ▽ −50 加定。 (任意仮設は除く)							⊢		
1-10-5 土留・仮締切工 (連節プロック張り工) 法 長 ℓ −100 延長 L 1, L 2 −200 近長 L 1, L 2 −200 加工延長100mにつき 1 箇所以上 (締切盛土) 基 準 高 ▽ −50 加定。 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ −100 加工延長100mにつき 1 箇所以上 (統切盛土) 本 本 高 ▽ −50 加定。 (任意仮設は除く)							×		
1-10-5 上留・仮締切工 基 準 高 ▽ -50 施工延長100mにつき1箇所以上 (経療収益土) 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上							$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
(連節プロック張り工) 法 長 ℓ −100		1-10-5	十留・仮締切工						
延長L ₁ , L ₂ −200 1-10-5		1 10 0		注 E n	-100	測定。	L,		
1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽ -50 施工延長100mにつき1箇所以上 測定。 (締切盛土) 天 端 幅 w -100 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ -100 施工延長100mにつき1箇所以上			(理即ノロツク版り上)	14 14 1	-100				
1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽ -50 施工延長100mにつき1箇所以上 測定。 (締切盛土) 天 端 幅 w -100 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ -100 施工延長100mにつき1箇所以上				7d F -		-			
1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽ −50 施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。 (経遺廃社)				延長 L ₁ , L ₂	-200				
1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽ −50 施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。 (経遺廃社)									
Tab 大部・収納・リエ 本 年 同 マ 30 測定。 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ -100							L ₂		
Tab 大部・収納・リエ 本 年 同 マ 30 測定。 (任意仮設は除く) 法 長 ℓ -100		1_10 5	上切, 信袋把工	並 淮 章 ▽	_50	施工延長100mにつき1箇所以上			
法 長 0 -100 施工延長100mにつき1箇所以上		1-10-5				測定。			
1-10-5 十卯・仮締切工			(締切盛土)			(
1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽ −50 施工延長100mにつき 1 箇所以上 (中詰盛土) (任意仮設は除く)				坛 長 ℓ	-100		INTER CONTRACTOR OF THE PARTY O		
1-10-5 土留・仮締切工 基 準 高 ▽						## T F 100 12 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
(中諸盛土) (任意仮設は除く)		1-10-5	土留・仮締切工	基準高 ▽	-50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。			
			(中詰盛土)			(任意仮設は除く)			
1-10-9 地中連続壁工 (壁式) 基 準 高 ▽ ±50 施工延長100mにつき 1 箇所以上		1-10-9	地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 ▽	±50		l l		
連壁の長さ 0 -50					-50	- 側疋。			
変 位 300						1			
						-	▼		
壁 体 長 L —200				室 PP 反 L	-200	-			
							L		
							NOME OF THE PROPERTY OF THE PR		
	_						<u> </u>		

第3編 土木工事共通編

	番	号	エ	種	測	定項目			値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘	要
第1章一般施工	第10節仮設工	1-10-10	地中連続壁工		基 準壁の変 壁 体	り長さ 位	▽ ℓ d L	±50 -50 D/4以户 -200		施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		D : #	元 径
		1-10-22	法面吹付工		法長	0 ⊴ 3 0 ≧ 3		-50 -100		施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	e e		
						の最小吹	cm 付面	-10 -20 iに凹凸がある は、設計厚 が厚は設計	の50%	施工面積500㎡につき1箇所以上 測定。 ただし、面積500㎡以下200㎡以 上の場合は、1箇所以上測定、 200㎡未満は管理データによるこ とができる。			
					延	長 L		-200		施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	7		

	番	号	工 種		測定		規格値	現俗値 (単位mm) 測 定 基 準	測	定	箇 所	摘	要
第	第		·	+	IN IN	NH.	+2	図面の寸法表示箇所で任意の部	123	~L	in DI	111-0	^
1 章	1 2	1-12-1	鋳造費(金属支承工)		孔	の直径差	-0	分を測定。					
一般	節工			上下 部構		ボスの多	 起を基準とした	※1) ガス切断寸法を準用する				「中心距離」 ンターボスを	とは、セ
施	場			造物との		孔	の位置ずれ	※2) 片面のみの削り加工の場合も含む。				した孔位置の	りずれ 。
エ	製作			接合用ボルト	中心	≦1000mm	1以下	※3) ソールプレートの接触面					
	エ			孔	#CP#		R起を基準とした の位置ずれ	の橋軸及び橋軸直角方向の長さ 寸法に対してはCT13を適用する ものとする。					
	共通					>1000mm	1.5以下	※4) 全移動量分の遊間が確保					
				アン	. '	≦	+3	されているのかを確認する。					
				アルン		100mm	-1	※5) 組立て後に測定					
				カールル	Ī	> 100mm	+4						
				ボルト		TOOIIIII	-2						
				鉄筋	4	中心距離※1	JIS B 0403-1995 CT13						
						コの本々	+0						
				センタ	亦	スの直径	-1						
				ボス	ボ	スの高さ	+1						
					-		-0 +0						
				ボ	ボ	スの直径	-1						
				ス ※ 5	-Tr	フの古さ	+1						
					1/1	スの高さ	-1						
						曲及び橋軸)長さ寸法	JIS B 0403-1995 CT13						
				全	7,71,11	AC 114	0110						
				移動量	Q	2≦300mm	±2						
				₽ ※	Q	!>300mm	± 0/100						
				4		下面加工	±3						
				組立高	仕上	げ H≦300mm	±3						
				<i>t</i>	ク	11 = 30011111	-5						
				H 	用リート構造	H>300mm	(H/200+3) 小数 点以下切り捨て						
						し長さ寸法	JIS B 0403-1995						
					*	2)、※3)	CT14						
				普通	鋳放	:し肉厚寸法 ※2)	JIS B 0403-1995 CT15						
				寸法	削り	加工寸法	JIS B 0405-1991 粗級						
					ガフ		JIS B 0417-1979 B級						
		1 10 :	鋳造費				以形义	図面の寸法表示箇所で任意の部				+	
		1-12-1	(大型ゴム支承工)		幅W	w,L,D≦500	0~+5	分を測定。					
					長 さ L	500 < w, L, D ≦1500mm	0~+1%		補強	W	//_		
				ゴム支	直 径 D	1500 < w, L, D	0~+15		t]	-	//L		
				承	-					w	-		
				本体	厚さ	t ≤ 20mm 20 < t ≤ 160	±0.5 ±2.5%						
					t	20< t ≤ 160 160< t	±4						
					相対誤差	w, L, D≦ 1 0 0 0	+1		-	D	-		
						1 0 0 0 < w, L, D	w, L, D/1000						
				支		A, B≦1500mm	ゴム支承本体厚さ(t)の 許容差に±1.5mmを加算					平面度:1個 支承の厚さ(大相対誤差	t)の最
				承高	長さ(A) 幅(B) 高さ(T)		ゴルオ番米は同々(い)の					八市村研定	
				ż		1500mm < A, B	ゴム支承本体厚さ(t)の 許容差に±2mmを加算						
					1	l						<u> </u>	

第3編 土木工事共通編

	ΔĪŽ	В	-	C-E-	测点语口	日本が快直本中		加 ウ 然 記	Acts and
	番	号	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第1章一般施	第12節工場	1-12-1	仮設材製作工		部 部材長 ℓ 材 (m)	±3······ ℓ≤10 ±4······	図面の寸法表示箇所で任意の部分を測定。		
工	製作工		刃口金物製作工			$h \le 0.5$	図面の寸法表示箇所で任意の部 分を測定。	/ 1	
	共通			-	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 3 \cdots$ $0.5 < h \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < h \le 2.0$		h	
				2	外周長 ℓ(m)	± (10+ℓ/10)			

第3編 土木工事共通編

							田米形位	型型 生	準規格値(単位mm)		
	番	号	工 種		測定項目		規格	値	測 定 基 準 鋼桁等 トラス・アーチ等	測 定 箇 所	摘 要
第1章一般施工	第12節工場製作工 共通	1-12-3	桁製作工 (仮組立による検査を: 施する場合) (シミュレーション仮 立検査を行う場合)		フランジ幅w 腹板高 h 腹板間隔 b'	(m) (m) (m)	±3 0.5< ±4 1.0< ± (3+w/	$w \le 1.0$ $w \le 2.0$	主桁・主構 支点及び支間中央付近で、任意 の部分を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を割 を定。 なお、場合では、フェーク表示品を使 用するJISに基づく試験成績表	h h h b h b h b h b h b h b h b h b h b	規格値のWに代 入する数値はm 単位の数値
				部材精度	δ (mm)	の板 ドフ床キト	b/18 w/2	50	主桁 支点及び支間中央付近で、任意 の部材を測定。。 h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)	w/2	
					部 材 長 e トランチ など	桁	±3······ ±4······ ±2······ ±3······	$\ell > 10$ $\ell \le 10$ $\ell \ge 10$			
					圧縮材 の曲がり δ (mm)		0/10		側た。 ℓ:部材長(mm)	l l	

	番	号	工 和	種		測定項目	規格値	準規格値(単位mm) 測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第	第		桁製作工	125		MAC XII	790 III IES	鋼桁等 トラス・アーチ等		規格値のLに代
1章一般施工	12節工場製作	1-12-3	作製作工 (仮組立による検施する場合) (シュミレーショ立検査を行う場合)	ン仮組		全長 L (m) 支間長 L n (m)	± (10+L/10) ± (10+L n/10)	主桁、主構のうち、任意の部分を測定。	全長 全長 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	入する数値はm 単位の数値
	工共通					主桁、主構の 中心間距離 B(m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots B>2$	支点及び支間中央付近で、任意 の部分を測定。		規格値のBに代入する数値はm 単位の数値
						主構の組立高 さ h (m)	± 5 h≤5 $\pm (2.5+h/2)$ h>5	両端部及び中心 部で任意の部分 を測定。	h	規格値のAに代 入する数値はm 単位の数値
					仮組立	主桁、主構の 通り δ (mm)	5+L/5······ L≤100 25 ······L> 100	L . Priprit L (III)	上 主桁	規格値のLに代 入する数値はm 単位の数値
						主桁、主構の そり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots \cdots$ $L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots \cdots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots \cdots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots \cdots$ $80 < L \leq 200$	主桁について、 10〜12冊間隔 電の部分を測定。 に主構の表間長 (m) に主権の支間長 (m)	δ L	規格値のにC代 入する数値はm 単位の数値
						主桁、主構の 橋端における 出入差 δ (mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主桁(主構)端 を測定。	δ 	
						主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	主桁の両端部 支点及び支間中 で、任意の部 分を測定。 h:主桁の高さ (mm) h:主構の高さ (mm)	h A S	
						現場継手部の すき間 δ_1 , δ_2 (mm)	±5	主桁、主構の継手で、任意の部分を測定。 設計値が5mm以下の場合は、マイナス値については設計値以上とする。	6,	
		1-12-3	桁製作工 (仮組立検査を 実施しない場合)			フランジ幅w (m)	±3	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近で任 意の部分を測定。	h	規格値のwに代 入する数値はm 単位の数値
						腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3 + w / 2)$ $\cdots 2.0 < w$	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測	I 型鋼げた	
					精	板の平面がおります。	h / 250	主桁 支点及び支間中央付近で、任意 の部分を測定。	b	
					度	度 る 版のデッキ プレート	b / 150	h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの間隔(mm)	δ	
						フランジの直 角度 δ (mm)	w/200	w:フランジ幅 (nm)	W/2	
						部 材 長 鋼 桁	±3····· ℓ≤10 ±4····· ℓ>10	主要部材のうち、任意の部分を測定。		

	番	号	工 種	測定項目	規格値	準規格値(単位mm) 測定基準 測定筋 網を第一時できる。 (調度)	į
						鋼桁等 トラス・アーチ等 例 た 酉 別 1両 多	:
第 1	1		桁製作工	部材の水平度	10	図面の寸法表示箇所で任意の部 分を測定。	
章	2 節		(鋼製ダム製作工(仮組 立時))	提 長 L	±30	L	
般	T			堤 長 ℓ 堤 幅 W	±10 ±30	P. T.	
般施工	一場製作			堤 幅 W	±10	ATT H	
	作工			高さH	±10		
				ベースプレートの高さ	±10	M H I In I	
	共通			本体の傾き	±H/500	$\frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac{1}{2} \ell^2 \ell^2$	
						<u> </u>	
						w L	
						H H	
						H	
						w.w.	
						, W	
						H	
						H	
						w lieb	
						Wille	
						L L	
						H	
						H H	
						[h] [h]	
						elelele ele	
						W ₁ L	
						н	
						AHHII III	
						AMARIAN W. L.	
						L L	
						н	
						"	
						H H	
						w J	
						1	
						Н	
						ele mente	
						w les	
						50-12 - NO.	

出来形檢查基準規格值(単位mm)

			-			出米形颅鱼基	準規格値(単位mm)			
:	番	号	工 種		測定項目	規格値	測 定 基 準 鋼桁等 トラス・アーチ等	測 定 箇 所	摘	要
第 1 章	第 1 2	1-12-4	検査路製作工	部材	部材長 Q (m)	$\pm 3 \cdots \qquad \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \qquad \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。			
一般施工	節工場製作	1-12-5	鋼製伸縮継手製作工	部材		0 ~ +30	図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。	w		
	15工 共			仮組立	の差	設 計 値 ±4	両端及び中央部付近で、任意の 部分を測定。			
	通			立時		±2		<u> </u>		
								(実測値) δ:		
		1-12-6	落橋防止装置製作工	部材		$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。			
		1-12-7	橋梁用防護柵製作工	部材		$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で、任意の 部分を測定。			
		1-12-8	アンカーフレーム製作工	仮		b / 500	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。	b 		
				組立	鉛 直 度 δ ₂ (mm)	h /500		$h = \frac{1}{11} \int_{-1}^{1} \delta_1$		
				時	高さh (mm)	±5		* πτ Τ Τ δ ₂		
		1-12-9	プレビーム用桁製作工	4977	マランジ帽	±2·····	各支点および各支間中央付近 で、任意の部分を測定。			
					フランジ幅 w (m)	±3		1		
				1/2	腹 板 高 h (m)			h I 型鋼げた		
						$\pm (3+w/2) \cdots$ $2.0 < w$		W		
						2. 0 \ w	各支点および各支間中央付近	,		
					フランジの直 角度 δ	w/200	で、任意の部分を測定。	w/2		
					(mm)					
					部 材	±3····· ℓ≤10 ±4···· ℓ>10	主要部分のうち、任意の部分を測定。	· · · · ·		
							各主桁について10~12m間隔を 測定。			
				仮組-	主桁のそり	−5~+5···		δ		
				立時		$L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots$		L		
		1-12-10	鋼製排水管製作工	\vdash		20 < L ≦40 ±3······	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。	L		
				部材	部材長 ℓ (m)	ℓ≦10 ±4·····				
				121		Q>10				

	亚.	Б	T 45	and the co		準規格値(単位mm) 測 定 基 準	38ii AA	- destrict
L	番	号	工 種	測定項目	規格値	鋼桁等 トラス・アーチ等	測 定 箇 所 ———————————————————————————————————	摘要
第1章一般施工	第12節工場製作工 共通	1-12-11	工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロッ性に の平時度標 の平時度以上。 値は計・値のの破り り0%以上。値を が上・値ののでののでは の機能度に の標準原子。 にの標準度といって のでののでののでは ののでののでののでは ののでののでのでのでは ののでのでのである。 での標準度といって にが にが にが にが にが にが にが にが にが にが	外面塗装では、無機ジンクリッ チペイントの塗付後と上塗り株 可時に測定したの大内面塗装をでは内 面塗装終了時に測定。 1ロットの大ささは、500㎡とす る。 1ロット当たり測定数は5点とし、各点の測定はの測定値とす の平均値をその点の測定値とす る。		
	第 1	1-13	架設工 (鋼橋)	全長・支間 L (m)	± (20+L/5)	図面の寸法表示箇所で任意の部 分を測定	全長 全長	
	3節橋梁架設		(クレーン架設) (ケープ* ルクレーン架設) (ケープ* ルエレクション架設) (架設桁架設)			L:主桁・主構の支間長(m)		
	Ĭ		(送出し架設)	通 り δ (mm)	$\pm (10 + 2L/5)$	主桁、主構で任意の部分を測定。		
			(トラベラークレーン架設)			L: 主桁・主構の支間長(m)		
				₹ り δ	± (25+L/2)	主桁、主構で任意の部分を測定。	δ	
						L:主桁・主構の支間長(m)	L	
					±4···	任意の部分を測定。		
				※主桁、主構の 中心間距離 B(m)	B≦2 ±(3+B/2) B>2			
				※主桁の橋端に おける出入差 δ (mm)	設計値±10	任意の部分を測定。	δ 	
				※主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	任意の部分を測定。 h:主桁・主構の高さ(mm)	$\delta \longrightarrow h$	
				※現場継手部の すき間δ1、δ 2(mm)	設計値±5	主桁、主構の継手で、任意の部分を測定。 設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。	δι	
						※は仮組立検査を実施しない工 事に適用。	$\rightarrow \downarrow \leftarrow \delta_2$	
			架設工(コンクリート橋)	全長・支間	_	任意の部分を測定。		
			(クレーン架設)			一連毎の両端及び支間中央につ		
			(架設桁架設)	桁の中心間距離		いて各上下間で任意の部分を測 定。 王桁について、仕意の部分を測		
			架設支保工 (固定)	そ り	_	主作について、仕息の部分を側定。		
			(固定) (移動)					
			架設桁架設					
			(片持架設)					
			(押出し架設)					

第3編 土木工事共通編

出来形檢查基準規格值(単位mm)

			I	1		出来形検査基	準規格値 (単位mm)						_
:	番	号	工種	測	定項目	規格値	測定基準	測	定	筃	所	摘	要
第1章一般	第14節法	1-14-2	植生工 (種子散布工) (張芝工)	切 土 0	0⊠5m	-200	施工延長100mにつき1ヶ所以上 測定。						
施工	面工共		(筋芝工) (市松芝工) (植生シート工)		0 2 5m	法長の-4%							
	通		(植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工)	盛 土	0⊠5m	-100							
			(植生穴工)		0 2 5m	法長の-2%							
				延	長 L	-200							
			植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長	ℓ < 5 m	-200	施工延長100mにつき1ヶ所以上 測定。						
				Q	ℓ ≧ 5 m	法長の-4%							
					合の最小吹作	-10 -20 寸面に凹凸がある場 寸厚は、設計厚の し、平均厚は設計厚	施工面積500㎡につき1箇所以上 測定。 但し、面積500㎡以下200㎡以上 の場合は、1箇所以上測定、200 ㎡未満は管理データによること ができる。 口50mm検査孔により測定。						
				延	長 L	-200	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。						

第3編 土木工事共通編

						出来形検査基			1
1	番	号	工種	測:	定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第1章一般	第14節法	1-14-3	吹付工 (コンクリート)	法長	ℓ < 3 m	-50	施工延長100mにつき1ヶ所以上 測定。	e of a	
施工	(面工共通		(モルタル)	Q	ℓ≧3m	-100			
					t < 5cm t ≧ 5cm	-10 -20	施工面積500㎡につき1箇所以上 測定。 但し、面積500㎡以下200㎡以上		
				t	ただし、吹作 合の最小吹作	寸面に凹凸がある場 寸厚は、設計厚の し、平均厚は設計厚	の場合は、1 箇所以上測定、200 耐未満は管理データによること ができる。 □100mm検査孔により測定し4 角の平均とする。	m/	
				延	長 L	-200	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。		
		1-14-4	法枠工 (現場打法枠工)	法長	ℓ < 10 m	-100	施工延長100mにつき1ヶ所以上 測定。	a w	曲線部は設計 図書による
			(現場吹付法枠工)	Q.	ℓ ≧ 10 m	-200	A WATER CO. L. C.	a h	
				幅	w	-30	枠延延長200mにつき 1 箇所以上 測定。		
				高	き h	-30			
				吹付权	中心間隔 a	±100			
				延	長 L	-200	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。		
							佐丁廷臣100>		
		1-14-4	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法 &	ℓ < 10 m	-100	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。		
					ℓ ≧ 10 m	-200			
				延	長 L	-200			*************************************
		1-14-6	アンカー工	削孔		設計値以上	10本につき1箇所以上測定。	a	※鉄筋挿入工に も適用する。
				配置		100	(任意仮設は除く)		
				せん孔	L方向 θ	±2.5度		у 0 Н х	
								$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

	_					準規格値(単位mm)			
_	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘	要
第 1	第 1	1-15-1	場所打擁壁工	基準高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	w ₁		
章	5		コンクリート擁壁工	厚 さ t	-20				
般	節擁			裏込厚さ	-50		/ h		
般施工	壁			幅 W ₁ , W ₂	-30		/ "		
1	I			高 さ h < 3m	-50				
	共通			h h ≧ 3m	-100		w ₂ w ₁		
	地			延 長 L	-200				
							\ _h \ \ _l		
							W ₂		
							w, w,		
							h h t		
							t t		
							W ₂ W ₂		
		1-15-2	プレキャスト擁壁工			施工延長100mにつき1箇所以上			
						測定。			
				基 準 高 ▽	±50				
				延 長 L	-200				
						Warrange Change and American Inc.			
		1-15-3	補強土壁工	基準高▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	-		
				高 さ h < 3m	-50		T		
			(補強土 (テールアル メ) 壁工法)	h h ≧ 3m	-100		In Inc.		
				鉛 直 度 △	±0.03hかつ± 300以内				
			(多数アンカー式補強土 工法)		000011,	同上かつ控え長,種類ごとに測定	→ ←		
					設計値以上	四上ル・パエん以, 俚親 ここに側た	T 12		
			(ジオテキスタイルを用 いた補強土工法)	延 長 L	-200	施工延長100mにつき1箇所以上	· #=== /		
				~ X L	200	測定。			
		1-15-4	井桁ブロック工	基 準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上	т.		
				法 長 h < 3m		測定。			
				1∠ 1 h ≥ 3m					
				厚さ t ₁ , t ₂ ,					
				t ₃	-50		L ₂		
				延長 L ₁ , L ₂	-200		<u>1/2</u>		
							€/2 € \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
							- / / / / t ₂		
							<i>ℓ</i> ≥ 3m		
							t,		
							ℓ < 3m		

第3編 土木工事共通編

出来形檢查基準規格值(単位mm)

				1	測定項目 規格値		準規格値(単位mm)		1	-
L	番	号	工 種	測定項目		規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘	要
第1章一般施工	16節浚渫丁	1-16-3	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船) 浚渫船運転工 (グラブ船) (バックホウ浚渫船)	基準 準高 電船 2000 5000 1000 2501 4201 6001 1350 幅 長惠準高 延 長	ps ps os os	$-800 \sim +200$ $-1000 \sim +200$ $-1200 \sim +200$ $-800 \sim +200$ $-1200 \sim +200$ $-1200 \sim +200$ -200 -200 $+200 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定 東に応じ中測定値の設計基準高 以下であること。 施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。 横断方向は、10m毎。 また、終面間点を加えきを 横断方向は、10m毎。 また、終面間は法尻、法肩とし必 要に応じ中測定値の設計基準高 以下であること。			
			浚渫船運転工 (グラブ船) (バックホウ浚渫船) (面管理の場合)	標高較差		平均 値 計算値 ±0 以下 以下	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理に関いて第3次元計測技術を用いた出来形管理を当場会に基立する場別が表す。 1. 1 表 1 表 2 表 2 表 3 表 3 計測値の規格値には、1 出来形管理を実施する場別を表して生100mmが含まができる。 2. 個々の計測値の規格値には、1 計測がる。 2. 1 個々の計測値の規格値には計測がある。 3. 計測は「1 工事」がある。 3. 計測は「1 工事」がある。 3. 計測は「1 工事」がある。 2. 位意の箇所で3次元設計データの設計面と、位意の箇所で3次元設計がある。 3. 計測は「1 工事」がある。 4 表 3 表 3 表 3 表 3 計測は「1 工事」がある。 4 表 3 表 3 表 3 表 3 表 3 表 3 表 3 表 3 表 3 表			
	第18節床版工	1-18-2	床版工・横組工	基準高幅 厚 さ 鉄筋の有効 鉄筋の有効 鉄筋	高さ	±20 0~+30 -10~+20 設計値以上 ±10 ±20 ±10 (有効高さがマイナスの場合)	基準高は、1径間当たり2ヶ所 (支点付近)で、1ヶ所当り両 端と中央部の3点、幅は1径間 当たり3ヶ所、厚さは型枠設 時におおむね10㎡に1ヶ所測定 する。 (床版の厚さは、型枠検査を もって代える。)			

	番	号	丁 ≇	測定項目		學規格但 (単位mm)	油 中 佐 元	按	Hi .
			工種		規格値	測 定 基 準 施工延長100mにつき 1 箇所以上	測 定 箇 所	摘	更
第 1	第 1	1-1	河川幅	W ≦ 5m		施工延長100mにつき 1 固所以上 測定。			
章	節			$5m < W \leq 20m$	-80]			
梨堤				W > 20m	−W∕250				
章築堤護岸工	第 7	1-7-4	護岸付属物工	幅 w	-30	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	⊢ **		
岸工	節法			高 さ h	-30				
	法覆						In .		
	護						7		
	岸								
	工								
	第	1-10-8	杭出し水制工	基 準 高 ▽	±50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	w		
	8節			幅 w	±300	例足。			
	水			方 向	± 7°	-			
	制工			延 長 L	-200	-			
							*		
							Тіі		
							11 1 1 1 1		
	第	1-13-3	配管工	埋設深t	0~+50	施工延長100mにつき 1 箇所以上			
	1 3	100	•			- 測定。	IMMINI		
	節			延 長 L	-200		€ t !		
	光ケ						οφά Ι		
]						. L		
	ブル								
	配管								
	管工						位 加 接続部 接続部		
	Т.						(地上機器部) (地上機器部)		
			ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	5 基につき 1 箇所以上測			
		1-13-4	// / / / / / / / / / / / / / / / / / /	※厚さ t ₁ ~t ₅	-20	定. ※は現場打部分のある場合	t 3		
				※幅 w ₁ , w ₂	-30	-	W 1		
				※高さ h ₁ , h ₂	-30	-	t 4 W2 t2		
				ж I д С II ₁ , II ₂	-30	-			
							h 1 h2		
							ts ts		
笙	笙		工作 了			柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷			
第 3 章 樋	- O	3-5-6	函渠工 (本体工)	基準高 ▽	±30	前)に測定する。	\ <u>``</u>		
草桶	節樋		(7T-17-12)	厚さ t ₁ ~ t ₈	90	函渠寸法は、両端、施工継手箇所	t, <u> </u>		
門	門				-20 -30	及び図面の寸法表示箇所で任意の部分を測定。	te → - t _T		
- 樋	樋			1		門柱、操作台等は、図面の寸法表	.		
管	管				-30	示箇所で任意の部分を測定。 プレキャスト製品使用の場合は、	t ₃ ±		
	本体				±30	製品寸法を規格証明書で確認する ものとし、『基準高』と『延長』	$h_i \perp \parallel \Box$		
	工			延 長 L	-200	を測定。	t₄ — <u>ii. — ii.</u>		
							vvg		
							₩ ₂		
							t		
							t ₈		
Ī									
							<u></u>		
							L		
						施工延長100mにつき1箇所以上			
			函渠工 (ヒューム管)			測定。			
			(PC管)	# #	1.00				
				基準高 ▽	±30		(())		
Ī			(コルゲートパイプ)						
			(ダクタイル鋳鉄管)						
				延 長 L	-200				

				Smr - Co	出来形検査基		New Control of	1.1	
	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘	要
第 3	第 3	3-5-7	翼壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で任意の部分 を測定	t w t		
章	節	3-5-8	水叩工	厚 さ t	-20		 		
樋門	樋門			幅 w	-30		ΠΠΤ		
	•			高 さ h	±30		h		
樋管	種管			延 長 L	-50		t t		
P	本						w		
	体工								
	Τ.								
							\\\\ ///		
							\\\\ /// L		
							\ \\\ /// /		
							<u> </u>		
第	第 6	4-6-7	床版工	基準高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で任意の部分 を測定			
4 章	Arte	4-6-8	堰柱工	厚 さ t	-20	Z ML			
水門	門	4-6-9	門柱工	幅 w	-30				
PF3		4-6-10	ゲート操作台工	高 さ h	±30				
	工	4-6-11	胸壁工	延 長 L	-50				
第	第	5-6-13	閘門工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で任意の部分			
5 章	節	5-6-14	土砂吐工	厚 さ t	-20	を測定			
堰	動	3 3 1 1		幅 w	-30				
	堰本			高 さ h	±30				
	体工			延 長 L	-50				
	第	5-7-8	堰本体工	基準高▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、			
	節			厚 さ t	-20	施工継手箇所及び構造図の寸法表 示箇所で、任意の部分を測定。	w		
	固	5-7-9	水叩工	幅 w	-30	The state of the s			
	堰本	5-7-10	土砂吐工	高 さ h	±30				
	体			L < 20 m	-50		" <u> </u>		
	I			堰長L L ≥ 20 m	-100				
	第		7 X4 1 11	基準高▽	±30	施工延長100mにつき 1 箇所以上	t_1 w t_2		
	8	5-8-3	魚道本体工	<u> </u>	±30 −20	測定。 製品使用の場合の製品寸法は、規	_ - +_" + 		
	節魚				-20 -30	格証明書等による。	t hz		
	道						h. V		
	工			高 さ h1, h2	-30		↓ L		
	第			延長L	-200	橋軸方向の断面寸法は中央及び両			
	7	5-9-2	管理橋橋台工	基準高▽	±20	端部、その他は図面の寸法表示箇 所で任意の部分を測定。	w ₂ w ₁ w ₂ w ₁		
	節管			厚 さ t	-20	別で注息の部分を例と。	гн ш		
	理			天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-10				
	橋下						nz] hz hz		
	部			天端幅 w ₂	-10		t / h1		
	工			(橋軸方向)					
				敷幅 W3	-50				
				(橋軸方向)			w ₃ w ₃		
				高 さ h ₁	-50				
				胸壁の高さ h ₂	-30		w₂ w₁ w₂ w₁		
				天端長 ℓ1	-50		TYTh: TYTh:		
				敷 長 ℓ₂	-50		100		
				胸壁間距離 0	±30		h ₁ h ₁ t		
				支点長及び	±50		1254.1254		
				中心線の変化	_00				
							Wa Wa		
第 6	第 4	6-4-6	排水機場本体工	基準高 ▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を 測定。	,		
章	節		吐出水槽工本体工	厚 さ t	-20		L		
章排水	機場			幅 w	-30				
機場	本			高 さ h1, h2	±30		w		
場	体工			延 長 L	-50				
	1								
							h2 🗸 🗸 h1		
				<u> </u>					
_									

3	番	号	工 種	測定項目	規格値	準規格値(単位mm) 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第	第			基準高 ▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を	L L	加女
6	4		排水機場	選 中間 t	-20	測定。	<u> </u>	
章排	節機		燃料貯油槽工	幅 w	-30			
水	場			高 さ h	±30			
機場	本体			延 長 L	-50			
	工			E K L	00			
							h	
	第	6-5-7	排水機場	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を	. L .	
	5 節		コンクリート床版工	厚 さ t	-20	測定。		
	沈			幅 w	-30			
	砂池			高 さ h	±30		w	
	工			延 長 L	-50			
							7	
							h	
							t t	
Anh:	Anhe-					図面の表示箇所で、任意の部分を	1	
第 7	4	7-4-6	本体工 (床固め本体工)	基準高▽	±30	図画の表示画別で、仕息の部分を 測定。	L ₁ . w ₁	
章床	節床		(水面の本件工)	天端幅 W ₁ , W ₃	-30			
止	止			堤 幅 W 2 堤長 L ₁ , L ₂	-30			
め・	め エ			堤長 L ₁ , L ₂ 水 通 し の 幅	-100			
床固					±50		l	
め				27 22			L ₂ w ₂	
		7-4-8	水叩工	基準高 ▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を		
		1 4 0		平 は t	-30	測定。 厚さは目地及びその中間点で測	L L	
				幅 w	-100	定。		
				延 長 L	-100			
							w	
	第 5	7-5-6	側壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を 測定。	L	
	節			天端幅 w 1	-30	長さは、天端中心線の水平延長、 又は、測点に直角な水平延長を測	w ₁	
	床固			堤 幅 w 2	-30	定。	 	
	め エ			長 さ L	-100			
	4							
							W/2	

	ΔĪ.		- ~·	\ps.		出米形模 盆基		NIII de Arte	1
	番	号	工種	測.	定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
第 1	第 3 節	1-3-4	鋼製堰堤仮設材製作工			±3	図面の寸法表示箇所で任意の部分を測定。		
章	工場			立て 太才	部材長 ℓ	ℓ≦10			
砂吐	工場製作			다 시기	(m)	$\pm 4 \cdots$			
防堰	I					Q>10			
堤	第	1-8-4	コンクリート堰堤本体工	基注	単 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所で任意の部分	L ₁	
	8 節		コンクリート副堰堤工	大端岩	# w1, w		を測定。		
	即コ		. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	堤	3 幅 w2	-30			
	ンカ				<u>増 W2</u> 通しの幅				
	クリ			//\.		±50			
	j			THE	Q1, Q2	100		L ₂	
	ト堰			定 反	L1, L2	-100		L2 002	
	堤						回てのまこ然でで バネの切りと		
	工	1-8-6	コンクリート側壁工		準高▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を 測定。	L W1	
					w 1, w 2	-30	長さは、天端中心線の水平延長、 又は、測点に直角な水平延長を測		
				長	さ L	-100	定。	 	
								↓ ↓ wz	
				L				W 2	
		1-8-8	水叩工	基	準 高 ▽	±30	図面の表示箇所で、任意の部分を測定。	, r. /\	
				幅	w	-100	厚さは目地及びその中間点で測		
				厚	さ t	-30	定。		
				延	長 L	-100			
								w	
	第		网制柜担大 大工		堤高▽	±50	図面の寸法表示箇所で、任意の部		
	9	1-9-5	鋼製堰堤本体工 (不透過型)				分を測定。 ダブルウォール構造の場合は、堤		
	節鋼		(1./返過主)	水 通	長さ 01,02	±100	高、幅、袖高は+の規格値は適用	W1	
	製			し部	幅 W1, W3	±50	しない。	$\begin{pmatrix} \frac{\ell_1}{\ell_2} \end{pmatrix} / \begin{pmatrix} \frac{1}{\ell_2} \end{pmatrix} $ w ₃	
	堰堤				下流側倒れ △	±0.02H1		TH2	
	工								
					袖高▽	±50		│	
				袖部	幅 w 2	±50		\downarrow_{W} \downarrow_{Δ}	
				THE PR	下流側倒れ	±0.02H2			
					Δ	±0.02112			
			鋼製堰堤本体工	埙	是長 L	±50	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。		格:格子型鋼製砂防ダム
			(透過型)		格	±30	,, _ , , , _ , , , , , , , , , , , , ,		10000 -1
				t _j	是長 ℓ	+10		And the tre	
				格	· B·L	±10		A HELLEL	A:鋼製スリット ダム A型
				場	R幅 W	1.00		I I I I FEE	,
					格	±30	T.	A III	
				损	e幅 w		н	HARACE HARACE	B:鋼製スリット ダム B型
					A · B · L	±10		Www.	/ 〜 D王
				点	яз н		Total		
				格・	哥さ H A・B・L	±10	H		L:鋼製スリット ダム L型
							H]		クム L室
					高さh	±10	w		
						l .	714441	The Land	
							- 15 1 1 1	н н	
							I to the second		
							alelalala	Pidd leid	
							- 1	W ₁	
							A	H	
							All	4/ 1000	
							1 /2		
							н		
								H MXX	
							1 m	w J	
							I.		
								н	
								ele me	
							h w Ler	h W	

出来形檢查基準規格值(単位mm)

	_			F	出来形検査基			
	番	号	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
第 1	第 9	1-9-6	鋼製側壁工	堤高▽	±50	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。	L	
章	節			長 さ L	±100	ダブルウォール構造の場合は、堤 高、幅、袖高は+の規格値は適用	<u> </u>	
砂防	鋼製			幅 w1, w2	±50	しない。	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
堰	堰			下流側倒れ △	$\pm H/500$			
堤	堤工			高 さ h < 3m	-50			
	1			h ≧ 3m	-100		W2	
第 2	第 5	2-5-8	魚道工	基 準 高 ▽	±30	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	t ₁ w t ₂	
章	節			幅 w	-30	製品使用の場合の製品寸法は、規格証明書等による。	T T T	
流路	床固			高さ h1, h2	-30	恰証内書寺による。	h ₂	
ICH:	め			厚さ t1, t2	-20		hı L 🗸 🗸	
	工			延 長 L	-200		<u> </u>	
第	第	3-6-4	山腹明暗渠工	基 準 高 ▽	±30	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	t _i w t ₂	
3 章	6 節			厚さ t1, t2	-20	なお製品使用の場合の寸法は、規	 	
斜	山			幅 w	-30	格証明書等による。	$h_1 \begin{vmatrix} b_2 \\ \nabla \end{vmatrix}$	
面対	腹水			幅 w1, w2	-50		11511	
策	路工			高さ h1, h2	-30		hi hi	
	Т.			深 さ h 3	-30		h	
				延 長 L	-200		₩2 ₩2 ₩	
							 	
	第	3-7-4	集排水ボーリング工	削孔深さ ℓ	設計値以上	5本につき1箇所以上測定。		
	7 節			配置誤差 d	100		d 🔪	
	地			せん孔方向 θ	±2.5度		0	
	下水						y y y	
	排除						I	
	际工						x /	
							$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
		3-7-5	集水井工	基準高 ▽	±50	5本につき1箇所以上測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測		
		0.0		偏心量d	150	偏心重は、杭頭と底面の差を側 定。	d \ ₩	
				長 さ L	-100			
				巻立て幅 w	-50		(
				巻立て厚さ t	-30		\Box	
							Η	
							$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
	止第	3-9-6	合成杭工	基 準 高 ▽	±50	10本につき1箇所以上測定。		
	抗 9 工節				D/4以内			
	扣扣			偏心量d	かつ100以内			
Ь—				I				

出来形検査基準規格値(単位mm)

	番	号	工 種	測定項目	規格値	 規格値(単位mm) 測 定 基 準	測定箇所	摘要
第	Anton					例	側 た 固 別	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
1	4	1-4	コンクリートダム工 (本体)	天端高▽	±20	測定。	天端幅	
章コ	節ダ		(本体)	天 端 幅	±20	堤高は、天端中心線延長を測	天端高 ┡━┤	
ン	A			ジョイント間隔		定。 越流堤頂部、天端仕上げなどの		
ク リ	コン			リフト高	±50	平坦性の測定方法は、検査員の 指示による。		
1	ク			堤幅	-30, +50	監査廊の敷高、幅、高さ、平坦	堤幅√	
トダ	IJ l			堤 長	-100	性等の測定方法は、検査員の指	リプト高し、	
4	ト					示による。	-181 IST	
	エ						堤幅	
							堤長	
							\ \.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\.\	
							ジョイント間隔	
							(注)1. j :ジョイント	
							(AE)1. J . D 3 1 D F	
			コンクリートダムエ	天 端 高 ▽	±20	5ジョイントにつき1箇所以上	E ↑	
			(水叩)	ジョイント間隔	±30	測定。		
				幅	±40	幅は、図面の寸法表示箇所で測 定。	天端高天端高	
				長き	-100, +60	水叩の平坦性の測定は、検査員		
						の指示による。	幅	
							天端高	
							·\	
							lng2	
							長さ / [] [[[]]]	
							r	
						E 25 - Z 1 / 1 / 2 2 4 4 Metron 1		
			コンクリートダムエ	天端高▽	±20	5ジョイントにつき1箇所以上 測定。	天端高	
			(副ダム)	ジョイント間隔		堤長は、図面の寸法表示箇所で	堤幅	
				リフト高		測定。	グロックト高	
				堤幅	-30, +50 -40		堤幅	
				堤 長	±40		181 181 181	
							堤長	
							1 1 1	
							堤長	
							1 1 測点	
							測点	
							提幅 測点 測点	
							J:ジョイント 堤長	
			I	l	l			

	番	号	工 種	測定項目	規格値	世界位 (単位 m m) 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
第		1-4	コンクリートダム工	天 端 高 ▽	±30	5 ジョイントにつき 1 箇所以上		
1 章	4 節		(導流壁)	ジョイント間隔	±20	測定。	天端幅	
コン	ダ			リフト高	±50	長さは、天端中心線の水平延長 又は、測点に直角な水平延長を	天端高	
ク	ムコ			長さ	±100	測定。	/厚さ	
IJ	ンク			厚さ	±20			
ŀ	IJ							
ダム	1						/ 厚さ /	
	工						7	
							│	
							(画(久 八百)	
							(永叩部) 一	
							/ / / - _{MTE} - J	
							(本体部) 別点	
							<u> </u>	
							J:ジョイント	
第 2	第 3	2-3-5	コアの盛立	基準高 ▽	設計値以上	5 測点につき 1 箇所以上測定。 ※外側境界線は標準機種(タン	_	
章フ	節盛			外側境界線	-0, +500	ピングローラ)の場合。	€! フィルター	
イ	立							
ルダ	工							
A		2-3-6	フィルターの盛立	基準高▽	-0	5 測点につき 1 箇所以上測定。	ロック / ロック	
		200	J 1/• J V2. <u></u>	外側境界線	-0, +1000		<u> </u>	
				盛立幅	-0, +1000		1/	
		2-3-7	ロックの盛立	基準高 ▽	-100	5測点につき1箇所以上測定。		
				外侧境界線	-0, +2000			
		0		** ** * * * * * * * * * * * * * * * *	1.00	図面の寸法表示箇所で、任意の		
		2	フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽ ジョイント間隔	±20 ±30	部分を測定。	₩ →	
			-	クョインド 间隔 厚 さ t	±20			
				相 w	±40			
				リフト高さ	±20			
				長 さ L	±100			
							ジョイント間隔	
	4.4							
第 3	第 3	3-3	ボーリングエ	深 度 L	設計値以上	5本につき1箇所以上測定。 ※配置位置の規定は、コンク		
章基	節ボ			配置 誤差	100	リート面で行うカーテングラウ トに適用する。	₽	
礎	1							
グラ	リン						L	
ウ	グ							
チン	工							
グ								

	番	号	工工種	ýH.	少百日	規格値	■規格値(単位mm)→ 測 定 基 準	测 专 签 元	4dz mr.
			,	伊	定項目			測 定 箇 所	摘要 規格値の&に
1		1-3-2	遮音壁支柱製作工			±3·····ℓ≤10	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。		代入する数値
章道路	節工場製			部材	部材長 ℓ (m)				はm単位の数 値
路	場製				(111)	$\pm 4 \cdots \cdot \ell > 10$			
改良	作						五块		
R	第 9	1-9-6	場所打函渠工		準高▽	±30	両端、施工継手及び図面の寸法表 示箇所で測定。	t _{i W} t ₂ L	
	節				t 1~ t 4	-20		<u> </u>	
	カル				内法) w	-30		t, +	
	バー			高	さ h	±30			
	1			延長I	L < 20 m	-50		t4 7 dos od s L aus ous	
	工				L ≧ 20 m	-100	施工延長100mにつき1箇所以上		
	第 1	1-11-4	落石防止網工	幅	W	-200	測定。		
	1 節			延	長 L	-200			
	落			法	長 L	-100	ロープ10本につき1箇所以上測		
	石雪			吊り	ロープ長 L	-200	定。		
	害				, =		U → Bita (m → 2). Vite III		
	防止		the service of the se	アン	カー 長	雪月	関予防柵工を適用 施工延長100mにつき1箇所以上		
	I	1-11-5	落石防護柵工		⇒ と・	1.00	脚上延長100mにつき 1 固別以上 測定。	т	
					高さh	±30		L	
				7					
				延	長 L	-200	端末基礎5基につき1箇所以上測	h	
					幅 W 1, W 2	-30	定。	[: [:] [:] [:] [:] [:] [:] [:] [:] [:] [
				基礎			中間基礎10基につき1箇所以上 測定。		
					高 さ h	-30			
			nl. == lm				施工延長100mにつき1箇所以上		
		1-11-6	防雪柵工				測定。	L L	
				高	さ h	±30			
								h la la la la la la la la la la la la la	
				延	長 L	-200			
				<u> </u>		200	基礎10基につき1箇所以上測	विकास (४००)	
					幅 W 1, W 2	-30	定。	h A	
				基礎	-				
					高さh	-30		W ₁ W ₂	
		1-11-7	雪崩予防柵工		1		施工延長100mにつき 1 箇所以上	_	
					高さh	±30	測定。	4/8/ L	
				延	長 L	-200			
					幅	0.0	基礎10基につき1箇所以上測 定。		
				基礎		-30	N-0		
				L	高 さ h	-30			
				アン		-10%	アンカー10本につき1箇所以上 測定。	w_1 w_2	
				カー長	埋込みℓ	-5%			
	第 1	1-12-4	遮音壁基礎工	幅	w	-30	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		
	2			100	W	50	単独基礎の場合は、落石防護柵工 を適用。		
	節遮			高	さ h	-30		h	
	遮音								
	壁工			延	長 L	-200	H-77 F 400		
		1-12-5	遮音壁本体工		間 隔 W ₁ , W ₂	±15	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	L L	
				+ "	ずれ a	10			
				支 柱	ねじれb-c	5			
					倒 れ d	h×0.5%		\ \ h	
				高	さ h	+30, -20		h H	
									
				延	長 L	-200		— <u>—</u> ——————————————————————————————————	
								b TY C	

第7編 道路編

	カストラ カストラ カストラ カストラ カストラ カストラ カストラ カストラ									户/元/1古 1년		<u> </u>	,						
	番	号	工	種		測定項目	1		各 値 10個の 測定値 の平均 (X ₁₀)	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
第 2	第 4	2-4	歩道路盤工		基	準 高	∇	±50	_	基準高は、以上の割		100m (⊂	1 箇所	厚さは、個々の 割合で規格値を					
章	節		取合舗装路盤工		厚	t <15	cm	-30	-10	幅は、片	側延長20			もに、10個のいて満足しなり)測定値	の平均値			
舗装	舗装		路肩舗装路盤工		さ	t ≧15	cm	-45	-15	により測		14、/I D	UTFAIRL	ただし、厚さの)データ	数が10			
200	工					幅		-100	_					は、測定値の平		固用 しな	۲۷° ه		
														①コア採取に~ 橋面舗装等で= を与える恐れの ことが出来る。	ァー採り				
			歩道舗装工		厚		さ	-9	-3	幅は、片以上の割					de:				
			取合舗装工			幅		-25	_	側毎右記			. 100 / 1	②厚さ管理基準 1000㎡未満	N = 11				
			路肩舗装工											1000㎡毎に (例 1000n					
			表層工											③厚さの確認 写真及び管理 る。	里データ!	こかえる	ことができ		

31	Œ.	п	- 任			基準規格値(単位mm) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	XIII → 655 →	John mil
	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第2章舗装	第5節排水構造物	2-5-9	排水性舗装用路肩排水工	基準高 ▽	±30	施工延長100mにつき 1 箇所以上 測定。		
	т Т			延 長 L	-200			
Ī	第 6	2-6	中央分離帯工	基 準 高	±30	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。		
	節縁			幅 W	-20	D37C0		
	石工			高 さ H	-40			
L				延 長 L	-200	□ Z o 末 三 佐 云 z · 左 o 如 / ↓ ナ		
	7	2-7-4	踏掛版工	基準高	±20	図面の表示箇所で、任意の部分を 測定。		
	節踏		(コンクリート工)	各部の厚さ	±20			
	掛		(= 12. 2)	各部の長さ	±30 ±20			
	版工		(ラバーシュー)	存前の女さ	±20 —			
			(アンカーボルト)	中心のずれ	±20			
			() 5 % 4() [1)	アンカー長	±20			
	第	2-9-4	大型標識工	幅 W 1 、W 2	-30	基礎5基につき1箇所以上測定。		
	9 節	201	(標識基礎工)	高 さ h	-30		₩,	
	標識		,				W2 O	
	工						NATA	
							W2	
							h	
			L. TGI Land also,	30. 男 幸 と エ	카라 (국자 [基礎5基につき1箇所以上測定。		
			大型標識工	設置高さ H	設計値以上	番 版 0 温 に っと 1 国 // (水工) 以 た。		
			(標識柱工)					
							н	
							\$	
Ī	第 1	2-12-5	ケーブル配管工	埋設深t	0~+50	施工延長100mにつき1箇所以上 測定。	(IRISHRI)	
	2						€ t	
	節道			延 長 L	-200		o o o o	
	路付							
	属施						<u></u>	
	設							
	エ						 	
							(地上機器部) (地上機器部)	
			ケーブル配管工	基 準 高 ▽	±30	5基につき1箇所以上測定。 ※印は、現場打部分のある場合		
			(ハンドホール)	※厚さ t ₁ ~t ₅	-20	水円4は、光物打印ガリめる場合	t, ∓[]	
			電線共同溝	※幅 w₁, w₂	-30		w ₁	
			(ハンドホール工)	※高さ h ₁ , h ₂	-30		t ₄ + w ₂ + t ₂	
							h, h ₂	
		9-19- <i>E</i>	照明工	幅 w	-30	10基につき1箇所以上測定。	. w . w	
		2-12-6	(照明柱基礎工)	幅 W 高 さ h	-30 -30			
			(35711五至埏上)	,-, C II				
							h h	

								出米形质省:	基準規格値(単位1	mm)					
1	番	号	エ	種	測	定項目		規格値	測 定 基	準	測	定	筃	所	摘要
第3章橋梁下部	第3節工場製作工	3-3-3	鋼製橋脚製作工		4 п	脚柱 ベレー 鉛直	スプ トの [度	w/500	図面の寸法表示箇所で測		δ +		却柱 ' ベーフ	スプレート	
					部材	ベースプレ	孔の位置孔	±2	図面の寸法表示箇所で測 図面の寸法表示箇所で測	削定	2	4 8 0 8			
						 	の 径 d	0~5 ±5…L≤10m	両端部及び片持ばり部で	で、任意の	b: 孔の中心	り 間距離(mn L		の直径(mm)	
						柱の中間隔、角長(m)	対 L	$ \begin{array}{c} - b = 10 \text{m} \\ \pm 10 \cdots 10 < L \le 20 \\ \text{m} \\ \pm (10 + (L - 20)/10) \\ - \cdots 20 \text{m} < L \end{array} $	部分を測定。		L			<u>L</u> *	
					仮組立時	は キバ柱 り δ (なび	L/1,000	各主構の各格点で、任意 測定。	意の部分を	δ // 側面図	€ 正面	6) -	δ 測線長	
	Arts:					柱の鉛	(mm)	10···H≤10 H···H>10	各柱及び片持ばり部で、 分を測定。		S 一 (側面		E面図	┗ H:高さ	
	6	3-6-8	橋台躯体工			単高		±20	2基につき1箇所以上測 図面の寸法表示箇所で、	刊た。 任意の部	W2	w₁ -	W2 W1		
	節橋				厚 炭 端	き幅	t w 1	-20	分を測定。		h ₂		L VI		
	台工					軸方「		-10			t /	h ₁		— t	
					天 端	幅	W 2	-10			Ì			t ±	
					(橋	軸方口	句)	-10			w	3	w ₃	→	
					敷	幅、		-50			W ₂ 1		\mathbf{w}_2 \mathbf{w}_1		
					高	軸 方 [-50			T \\	 ⊥ h₂	A] <u>_</u> H	h2	
						の高さ		-30			h ₁	hı		t	
					天 端	長	Q 1	-50				<u>\</u>		⊐ <u>∔</u>	
						長	Q 2	-50			W3	→ '	W3	→ '	
						間距月		±30				胸壁間距離	l Q		
					中 心	長の	変位	±50				支閣長			
					アンカ	1		箱抜き							
						計画平面		+10~-20 ±20							
					支 承	アンカー ト孔の鉛	ボル	1/50 以下			al			a2	
						. ,0 81									
											7 11	\neg		\mathbb{M}	

70	号	工任	测点式口		基準規格但(単位mm)		John and
番	tota I		測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	第 ₃₋₇₋ 7	9 橋脚躯体工	基準高 ▽	±20	2 基につき 1 箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部	w₁ ℓ₁ → k k →	
章 :	節	(張出式)	厚 さ t	-20	分を測定。		
	R	(重力式)	天端幅 w 1	90		$\int \left\langle \begin{array}{c} h \\ \downarrow \end{array} \right\rangle \left\langle \begin{array}{c} t \\ \downarrow \end{array} \right\rangle$	
平 :	C 憍	(半重力式)	(橋軸方向)	-20		———— —	
部	脚		敷 幅 w 2		1	w ₂ l l ₂ l	
	I.			-50		w ₁	
			(橋軸方向)				
			高 さ h	-50		h t	
			天端長 1	-50			
			敷 長 ℓ₂	-50]	w ₂	
			橋脚中心間距離		1		
			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	±30		極脚中心開距離 Û	
					1		
			支間長及び中心線の変位	±50			
			アンカーボルトの	箱抜き			
			計画高	$+10\sim -20$		L L1	
			平面位置	±20	1	al al	
			支 承		1	h1 - 1	
			アンカーボル ト孔の鉛直度	1/50 以下		11.2	
					-		
						中心線の変位 (a 1:模軸医角方向) (a 2:模軸医角方向)	
						a1 a2	
		橋脚躯体工	基 準 高 ▽	±20	2 基につき 1 箇所以上測定。		
					図面の寸法表示箇所で、任意の部	w ₁	
		(ラーメン式)	厚 さ t	-20	分を測定。	<u> </u>	
			天端幅 w 1	-20		h	
			敷 幅 w 2	-20		1 t	
			高 さ h	-50		W ₂	
			長 さ ℓ	-20		WZ	
						. k →	
			橋脚中心間距離 ℓ	±30		1	
						h t t t	
			支間長及び	±50			
			中心線の変位			W ₂ W ₂ W ₂	
			アンカーボルトの	箱抜き			
			計 画 高	$+10\sim -20$		橋脚中心開距離 Ø 支限長	
			平面位置	±20]		
			文 本				
			アンカーボル ト孔の鉛直度	1/50 以下			
					-		
						a 11 all	
	第 3-8-	9 橋脚フーチング工	基 準 高 ▽	±20	2基につき1箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部	santa ta	
	8	(I 型・T型)	幅 w		分を測定。		
9	鋼		(橋軸方向)	-50			
	製橋		高 さ h	-50	1	l L J L J '	
	脚				1	W 11:11	
	Ĭ		長 さ h	-50	-	; (k) ; ; † ;	
						<u> </u>	
						Fw 4	
		橋脚フーチング工	基 準 高 ▽	±20	2基につき1箇所以上測定。 図面の寸法表示箇所で、任意の部	n	
		(門型)	幅 W 1 , W 2	-50	分を測定。	h I	
			高 さ h	-50	1		
					1		
						k→1 k→1 W2 W2	

ш							

_				,		山木川	ク快狙	基準規格値(単位mm)	1				1
3	番	号	工種	測	定項目	規格	値	測定基準	測	定	筃	所	摘要
第 3	第。	3-8-10	橋脚架設工	基準	善高▽	±20	0	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。					
章	8節		(I 型・T型)	橋脚中	心間距離 0	±30	0	N E MAC			┌──┸	_	
橋	鋼			支 間	長及び	1.5	0						
梁下	製橋			中心;	線の変位	±50	0						
部	脚										1		
	工												
			橋脚架設工	基準	善高▽	±2	0	図面の寸法表示箇所で、任意の部			Ω		
			(門型)	橋脚中	心間距離 0	±30	0	分を測定。			$\prod_{i=1}^{n}$	_	
				支 間	長及び						Ш		
				中心;	線の変位	±50	0		Г		┰┐-		
		3-8-11	現場継手工	現場継	手部のすき間	5		図面の寸法表示箇所で、任意の部					
				δ 1,	δ_2 (mm)	*±	5	分を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合					
第	工第	4-3-9	橋梁用高欄製作工			±3		図面の寸法表示箇所で、任意の部					
4 章	3 節				部材長ℓ		ℓ ≤ 10	分を測定。					
鋼	エ			部材	(m)	±4							
橋上	場製						Q>10						
部	作				I.								
	第	4-5-10	支承工	据付け	高さ 注1)	±5	;	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。					
	5 節		(鋼製支承)	可動习	友承の移動	設計移	動量	アを例だ。 B:支承中心間隔(m)					
	鋼			可能	量 注2)	以上		支承の平面寸法が300mm以下の場					
	橋架			支承	中心間隔	コンクリート 橋	鋼橋	合は、水平面の高低差を1mm以下 とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける					
	設工						± (4+	なお、文本を勾配なりに据付ける 場合を除く。					
	工			(橋軸	直角方向)		$(0.5 \times (B-2))$	注1) 先固定の場合は、支承上面で 測定する。					
								注2) 可動支承の遊間(La、Lb)を計 測し、支承据付時のオフセット量					
				水	橋 軸 方 向			δを考慮して、移動可能量が道路					
				平度		1/1	.00	橋支承便覧の規格値を満たすこと を確認する。					
					橋軸直角方向			注3) 可動支承の移動量検査は、架 設完了後に実施する。					
					友承の橋軸			詳細は、道路橋支承便覧参照。					
					句のずれ 友承線上の	5							
					対誤差								
					助支承の 確認 注3)	温度変化に 動量計算							
				75%月七年	性配 (土3)	1/21							
			支承工	据付け	高さ 注1)	±5	5	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。					
			(ゴム支承)	可動力	友承の移動	設計移		B: 支承中心間隔(m)					
				可能	量 注2)	以上	=	上部構造部材下面とゴム支承面と の接触面及びゴム支承と台座モル					
				支承	中心間隔	コンクリート 橋	鋼橋	タルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。					
						1	± (4+ 0.5×						
				(橋軸	直角方向)			支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下					
					橋 軸 方 向			とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける					
				水平	100 TH // [F]	1/3	800	場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で					
				度	橋軸直角方向		,,,,	測定する。					
					阿押區門刀門			注2) 可動支承の遊間(La、Lb)を計 測し、支承据付時のオフセット量					
					友承の橋軸			δを考慮して、移動可能量が道路 橋支承便覧の規格値を満たすこと					
					句のずれ 友承線上の	5		を確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架					
					対誤差			設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。					
					助支承の 催認 注3)	温度変化に付量計算値の1		PH/YMIA、足町TID 人外状見参照。					
				以及出版化	µBU ILU/								

	番	号	工 任	and charge to		安宇 祝俗 恒 (早位 III III)	\n_	John and
			工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第 4	第 8	4-8-1	地覆工	地覆の幅 w ₁	$-10\sim +20$	図面の寸法表示箇所で、任意の部 分を測定。		
章	節			地覆の高さ h	$-10\sim +20$		W1 W2	
鋼橋	橋梁			有効幅員 w ₂	$0\sim +30$		<u></u>	
上	付						h	
部	属							
	物工							
				7.4 4.1		10本につき1本以上の割合で測		
		4-8-3	落橋防止装置工	アンカーボルト 孔の削孔長	設計値以上	定。 D:アンカーボルト径(mm)		
						D 1 / 1 / 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 ·		
				アンカーボルト 定着長	-20以内かつ -1D以内			
				72.62	12011 1			
						図面の寸法表示箇所で、任意の部		
		4-8-6	橋梁用防護柵工	天端幅 w 1	$-5\sim+10$	分を測定。	w1	
		4-8-7	橋梁用高欄工	地覆の幅 w 2	$-10\sim +20$		ři-	
				高 さ h 1	$-20\sim +30$		h1	
				高 さ h 2	$-10\sim +20$			
				有 効 幅 員 w	$0\sim +30$			
							W2 W1	
							hs.	
							162	
		4-8-8	検査路工	幅	±3	1 ブロックを抽出して測定。		
			174-14-14	高 さ	±4			
第	第	5-6-2	プレビーム桁製作工	幅 w	±5	図面の寸法表示箇所で、任意の部		
5 章	6 節		(現場)		+10	分を測定。 横方向タワミの測定は、プレスト	, 	
早コ	ポプ		(25-74)	高 さ h	-5	レッシング後に測定。 Q:スパン長		
ンク	レ				ℓ<15···±10	10 . 20 V X	h	
リリ	ビー			桁 長 0	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \ge 15 \cdots \pm (\ell - 5)$			
]	ム				かつ			
ト橋	桁橋			スパン長			ا س ع	
上	工				-30mm以内			
部				横方向最大タワ	0.80			
				3				

	777	п	_ ~	Not always to		基準規格値 (単位mm)	No. 1. deta	l-la-mat
	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
第6章トンネル	第4節支保工	6-4-3	NATM 吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、ただし、ただし、大路で施工端部、出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長100mにつき図に示す(1)~(7)及び断面変化点の任意の 検測孔で、3箇所を測定。 100m以下については、2箇所 以上測定。 注)良好な岩盤とは、道路トンネ ル技術基準(構造編)にいう地盤 等級A又はBに該当する地盤とす る。	(2) (1) ^G (3) 康 エコンクリート	
N A T M		6-4-4	NATM ロックボルトエ	位置間隔 角 度 削孔深され 孔 経 出量	一一一一一	施工延長100mにつき1箇所以 上測定。 1箇所当たりの本数は、断面全体 を測定。ただし、延長100m以 下の場合は、両坑口部を含めて3 施工箇所以上測定。		
	5 節 悪	6-5-3	NATM 覆工コンクリート工 側壁コンクリートエ	基準高(拱頂) 幅 W (至) 内 (内) 内 (内) 原 さ t 延 長 L	-50 -50 設計値以上	延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。なお、以下の場合には、左記の規格値は、適用除外とする。・良好な地山における分的な次出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。なお、変形が収束しているものに限る。・異工圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時にには変更が確認されている場合。・卵の分ボルトの突出部。	f (1) (3) 覆エコンタリート (6) (5) S.L. (7)	
	第6節イン	6-5-5	NATM 床版コンクリートエ	幅 w 厚 さ t		施工延長100mにつき1箇所以 上測定。 ただし、延長100m以下の場合 は、両坑口部を含めて3施工箇所 以上測定。		
	バートエ	6-6-4	NATM インバート本体工	幅 w (全幅) 厚 さ t 延 長 L		延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。	GL	
第6章トンネル(NAT	第8節坑門工	6-8-4	NATM 坑門本体工	基準高▽幅 W 1 , W 2 高 h < 3m さ h ≥ 3m 延長 L	-30 -50 -100	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。	h W ₁	
M		6-8-5	NATM 明り巻工	基準高(拱頂) 幅w(全幅) 高さh(内法) 厚 さ t 延 長 L		延長100mにつき1箇所以上測定。ただし、延長100m以下の場合は、両坑口部を含めて3施工箇所以上測定。	(アーチ部) (個壁部) (インバート部)	

_				,		四水炒饭豆	基準規格値 (単位mm)		
	番	号	工種	浿	則定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
第 1	第 6	11-6-2	共同溝	基	準高で	₹ ±30	延長100mにつき1箇所以上測 定。		
1	節		(現場打躯体工)	厚	さ	t —20	20		
章	現場	12-5-4	電線共同溝	内	空幅、	w -30		[.000]	
同	打		(現場打ボックス工)	内:	空高	±30		tw tw tw tw t	
溝	構築		(特殊部)	ブロ	ック長	L -50		<u> </u>	
	Ĩ								
								h h h h	
							図面の寸法表示箇所で、任意の部		
		11-6-4		厚		t —20	図画の寸伝表小画所で、任息の部 分を測定。		
			(カラー継手工)	幅		w −20	- -	t]	
				長	<u>غ</u> ا	L -20	-	⊬——↓ L	
								<u>w</u> →	
		11-6-5	北同 溝	幅		w 設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側		
		11 0 0	(防水工)	100		WHI INC.	壁・頂版で、任意の部分を測定。		
			,					w w	
			共同溝	厚	さ	t 設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」 で、任意の部分を測定。		
			(防水保護工)				こ、任息の部方を例定。	. +	
								t <u> </u>	
			共同溝	高	<u>غ</u> ا	n —20	図面の寸法表示箇所で、任意の部分を測定。		
			(防水壁)	幅		v ±50			
				厚	さ	t —20	-	h C	
								<u>₩</u>	
	構第	11-7-2					延長100mにつき1箇所以上測		
	築 6 工節		プレキャスト躯体工				定。	L	
	上即プレ		, comply and	基	準高で	₹ ±30			
	レキ	1							
	キャス			延	長	L -200	1		
	ト						1		

	ΔĒ.	п	- ff	381 e = = = = = = = = = = = = = = = = = =		基準規格但(単位mm)	2mi	John mit
	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
第 1 2	第5節	12-5-2	管路工 (管路部)	埋 設 深	0~+50	延長100mにつき1箇所以上測定。	£ 	
2章電線共同	電線共同溝			延 長 L	-200			
溝	工						接続部 接続部 (地上機器部)	
		12-5-3	プレキャストボックス工	基 準 高 ▽	±30	延長100mにつき1箇所以上測		
			(特殊部)			定。		
	第6節付帯設備工	12-6-2	ハンドホールエ	基 準 高 ▽ ※厚さ t ₁ ~t ₅ ※幅 w ₁ , w ₂ ※高さ h ₁ , h ₂		5 基につき 1 箇所以上測定。 ※印は、現場打部分のある場合	$\begin{array}{c} t_3 \\ w_1 \\ t_4 \\ \hline \\ t_1 \\ \hline \\ h_2 \\ \hline \\ h_2 \\ \hline \\ t_3 \\ \hline \\ t_4 \\ \hline \\ \\ t_4 \\ \hline \\ \\ t_2 \\ \hline \\ \\ t_5 \\ \hline \\ \\ t_5 \\ \hline \\ \\ t_5 \\ \hline \\ \\ t_6 \\ \hline \\ \\ t_7 \\ \hline \\ \\ t_8 \\ \hline \\ \\ \\ t_8 \\ \hline \\ \\ \\ \\ t_9 \\ \hline \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ $	

_						^達 規格値(単位mm)		
	番	号	工種	測定項目	規 格 値 個々の 測定値 測定値の 平均 (X) (X) (X ₁₀)	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第14章道路維持	第3節舗装工	14-3-5	切削オーバーレイエ	厚 さ t 幅 w 延 長 L 平 坦 性	-9 -25 -100 3mプロフィルメーター標準偏差 (σ) 2.4mm以下 直接式 (足付き) 標準偏差 (σ) 1.75mn以下	とができる。	乗り上手においては、平坦性の項目を省略することができる。	なお、コア一採 取の位置は、施 取の位置は、 を 車線の中央で 採取。 1車線しかない 中 央4分の1付近 左右千鳥に採 取。
		14-3-5	切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さtまたは標高較差 (切削)のみ	厚 さ t (標高朝削)	- 17 (17) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	1. 3 次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)(路面切削工 編)に基づき出来形管理を実施し た場合に適用する。 2. 厚さ t または標高較差(切削)は、現舗装高と切削後の基準 高との差で算出する。 3. 厚さ(ナーバーレイ)は下記によるものとし、切削後の基準高と オーバーレイ後の基準高と 出する。 厚さ管理基準 1000㎡未満 № 1 箇所以上 1000㎡毎に № 1 箇所以上 (例 1001㎡は 2 箇所を測定) 4. 幅は、延長200m毎に 1 ヶ所の 割合とする。	Q	
		14-3-7	路上再生工	路厚さま 盤幅 w 工延長 L	-30 -50	幅は、延長200mに1箇所割とし、厚さは、下記により測定。 厚さ管理基準 1000㎡未満 N=1箇所以上 1000㎡毎に N=1箇所以上 (例 1001㎡は2箇所を測定) 厚さの確認 写真及び管理データにかえることができる。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

出来形檢查基準規格值(単位mm)

_					山木沙俠	查基準規格/				
	番	号	工種	測定項目	規格	値 鋼げる		測 定 箇 所	摘	要
第16章道路修繕	第3節工場製作工	16-3-4	桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b, (m)	0. $5 < w \le \pm 4 \cdots$ 1. $0 < w \le \pm (3 + w/2)$	床組なる ≦1.0 ≤2.0 , < w	文間甲央付近で、任意の部分を測定。 中央付近で、任意の部分を測定。	h h h h h h h h h h h h h h h h h h h		
				フ ラ ン ジ の 直角度 δ (mm)	w/200	主桁	各支点および各 支間中央付近 で、任意の部分 を測定。	w/2		
				圧 縮 材 の 曲がり δ (mm)	€∕1000	_	各支点および各支間中央付近で、任意の部分を測定。 &: 部材長(mm)	 ~		

	番	号	工種	測定項目	規格値	玉準規格値(単位mm) 測定基準		摘 要
第		万 8-1-1	工 種 管路掘削		規 恰 旭 ±30	側 足 塞 準 施工延長200mにつき1箇所以	7.7	1間 岁
8	1	0 1-1	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	深さ h	±30 -50	施工延長200mにつき 1 固所以 上測定。		
編	章			幅 B	-50			
下	開		公 DV HH 二	II. M.	4.00		0 >	
水道	削		管路埋戻	基準高▽	±30	施工延長200mにつき1箇所以 上測定。	7,000	
編	I							
		8-1-2	管布設	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水 平)は、施工延長100mにつき		
			(自然流下管)	中心線の変位 (水平)	±50	1 箇所以上測定。		
				勾配	設計勾配±20%			
				延長 0	- l /500 72 -200	延長は、施工延長100mにつき 1箇所以上測定。 延長はマンホール間を測定。		
				総延長 L	-200			
			短形渠	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水		
			(プレキャスト)	中心線の変位 (水平)	±50	平)は、施工延長100mにつき 1箇所以上測定。		
				勾配	設計勾配±20%			
				延長 0	- ℓ /500 カュ -200	延長は、施工延長100mにつき 1箇所以上測定。		
				総延長 L	-200	延長はマンホール間を測定。		
			圧送管	基準高▽	±30	施工延長100mにつき 1 箇所の		
				本中同 V 中心線の変位 (水平)	±50	割合で測定する。		
				総延長	-200	1		
				WO XEL XX		1	<u> </u>	
		8-1-3	砂基礎	基準高▽	±30	施工延長100mにつき1箇所の		
				基準局∨ 幅 B	-50	割合で測定する。	A 181812818181	
				幅 B 厚さ h	-30	-		
				FC N		-	B B	
			砕石基礎	基準高▽	±30	施工延長100mにつき1箇所の	T 1	
			rawe	基準局 V 幅 b	-50	割合で測定する。		
				***	-30	-		
				厚さ h	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	-	1000	
			コンクリート基礎	基準高▽	±30	施工延長100mにつき1箇所の		
1			・マノノ 「強硬		-30	割合で測定する。		
1				幅 b	-30	-		
				厚さ h	00	-	↓ h	
			まくら土台基礎			施工延長100mにつき1箇所の	1 1	
				基準高▽	±30	割合で測定する。		
						-		
1								
			はしご胴木基礎	基準高▽	±30	施工延長100mにつき1箇所の		
1			- C - MI // CERNE		-30	割合で測定する。		
				幅 b 厚さ h	-30	-		
				子C N		-	K P M p p	
		8-1-4	現場打水路	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水	100	
				本平向 V 中心線の変位 (水平)	±50	平) は、施工延長100mにつき	the byt	
1				幅b	-30	1 箇所以上測定。	Φ.	
				幅 B 高さ h	±30	-		
				同さ n 厚さ h	±30 -20	1		
				夕配	20 設計勾配±20%	1		
				~VHL	- 2/500 カンつ	延長は、施工延長100mにつき		
				延長 0	-200	1 箇所以上測定。		
				総延長 L	-200	延長はマンホール間を測定。		
		8-1-5	鋼矢板土留	総延按 L 基準高▽	±50	施工延長100mにつき1箇所の	変位	
			The second second	根入長 L	設計値以上	割合で測定する。	♥ ∇	
				変位	100	き2箇所測定する。	1	
]	4-11-11-	
						<u> </u>		

	号	十 播	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘	要				
番		工 種 推進工		***	型 産 産 単 基準高、中心線の変位(水	侧 化 固 別	1問	安				
2	- <u>-</u> 1	1 m × C - 1 .			平) は、施工延長100mにつき							
3					1 箇所以上測定。							
章			少門		延長は 梅丁延長100mにへき	(())						
小口			延長 0	- 100 カン -200	1箇所以上測定。 延長はマンホール間を測定。							
径			総延長 L	-200								
推進	8-2-2	空伏工	基準高▽	±50	基準高、中心線のずれ、延長は 佐工延長100~12 0 を 1 年	h						
工			幅 b	-30	所以上測定。	←						
• #			高さ h	-30								
進			中心のずれ	±50	.XL0							
I.			延長	-50		V						
			勾配	設計勾配±20%								
第	8-4-1	掘進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水							
4章			中心線の変位 (水平)	±100	平) は、セグメント200リング につき 1 箇所測定。							
ルル			延長 0	- ℓ/500 カンつ -200	延長0はマンホール間を測定する。							
工			総延長 L	-200								
	8-4-2	二次履工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水 平) 一次覆工原 仕上がり							
			中心線の変位 (水平)	±50	内径は、施工延長100mにつき 1箇所以上測定する。							
			f	1	二次履工 t	-20	二次履工厚は、上下左右4点を測 定する。	(D				
					仕上がり内径 D	±20		₹ t				
								勾配	設計勾配±20%			
				延長 0	- ℓ/500 カンつ -200	延長0はマンホール間を測定する。)					
			総延長 L	-200								
第 5 章	5-3-1	管きょ内面被覆工 反転・形成工法	仕上がり内径 D	厚が呼び厚さ以 上で、かつ上限 値は+20以内と し、測定値の最		330° 既設管 更生管						
管渠更生工			更生管厚	小値は設計更生 管厚以上とす る。		270° D1 90° 210° 150°						
	5-3-2	管きょ内面被覆工 製管工法	仕上がり内径 (高さ・幅)	平均管厚が設計 更生管厚を下回 らない。	1スパンの上下流管口のいずれか一方で測定する。 それぞれの更生管の内側中央 高さと幅の2ヶ所で測定する。	270° 表面部材 既設管 光で人材 180°						
	(2・3章 小口径推進工・推進工 第4章 シールド工 第5章 管渠更生工	2・3章 小口径推進工・推進工 第4章 シールド工 第5章 管渠更生工 8-4-2 5-3-1	第 8-2-2 空伏工 8-4-1 掘進工 8-4-2 二次履工 8-4-2 二次履工 5-3-2 管渠更生工	2	1	中心級の変位(株平)	1	中心側の東位(水中 土50				

第8編 下水道編

	ΩŽ.		_ ~	油台香口		をとして とり とう とう とう とう とう とう とう とう とう とう とう とう とう	YELL AND SHAPE AND	Inde
	番	号 6.1	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第 8 編	第 6 章	8-6-1	マンホール工 (現場打ち)	基準高▽ 幅 b (内法)	±30	5基につき1箇所以上測定。 基準高は、マンホール輪の天 端高とする。		
下	マ			幅 b (內法)	-30			
水道	ンホー			壁厚 t	-20			
編	ールエ			人孔天端高	±30			
							15051951919511	
			マンホール基礎工	基準高▽	±30	5基につき1箇所以上測定。		
			(現場打ち)	床掘深 H	±30			
				基礎工幅 BI	-50			
				基礎工高 h1	-30			
				コンクリート工幅 B2	-30			
				コンクリート工高 h2	-10			
							$\begin{vmatrix} B2 & \Rightarrow \\ B1 & \Rightarrow \end{vmatrix}$	
		8-6-2	組立マンホール工	基準高▽	±30	5基につき1箇所以上測定。 基準高は、マンホール輪の天 端高とする。	GL WOLL	
				人孔天端高	±30	河面にする。		
		8-6-3	小型マンホールエ	基準高▽	±30	5基につき1箇所以上測定。 基準高は、マンホール輪の天 端高とする。	- GL	
				人孔天端高	±30	地向とりる。		
							<u> </u>	

3	E.	号	T 15	测学蛋白		基準規格値(単位mm) 	201	John	- mar
	番		工 種 現場打ち特殊人孔	測定項目	規格値	測 定 基 準 5 基につき1 箇所以上測定。	測定箇所	摘	要
8	7	0-1-1	光場打り付外八孔	±7H, V	±30 -30	3 産につき1箇別以工例だ。	varia GL.		
編	章			幅 b	±30				
下	特			高さ h					
水道	殊マ			壁厚 t	-20		<u> </u>		
編	ン			人孔天端高	±30		k I		
	ホー						### Tea V t		
	ル						h B -		
	エ								
		8-7-2	伏せ越し室・雨水	基準高▽	±30	5 基につき 1 箇所以上測定。			
			吐室工	幅 b (内法)	±30		⇒it b t l l l v v		
				高さ h	±30	_			
				厚さ t	-20				
							↑ t → le → le ↑ t		
		8-7-3	伏せ越し管工	基準高▽	±30	5基につき1箇所以上測定。			
				中心線の変位	±30	1			
							(())		
		8-7-4	越流堰(雨水吐 室)	基準高▽	± 10	基準高は、中央部および両端 部を測定する。	, d.		
			土/	幅 b (厚さ)	±20	- Ph. 2 MVC A 20			
				高さ h (深さ)	±30		L/ I		
				延長 L (長さ)	-20	■ 幅、高さ、延長は、5施工箇 ■ 所に1箇所以上測定する。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
),,,, = <u>[</u> [],,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
			rh (nh 18) (8 + b ≥ l).			□ 甘たった 1 株式 N 和点			
			中継ポンプ施設	基準高▽	±30	5基につき1箇所以上測定。			
				幅、長さ B	-30		a .		
				深さ h	-30				
				壁厚 t	-20	_	→ k + + + + + + + + + + + + + + + + + +		
		8-8-1	公共ます	ます深 h	±30	5 基につき 1 箇所以上測定。			
				3 7 JK 11	=00		1		
	第								
	8 章						h l		
	取 付								
	管	8-8-2	取付管	延長(L)	-200	5基につき1箇所以上測定。	i gu		
	及 び					1	-		
	ます								
	у Т.						1		
							<u> </u>		
							-		
		8-11-1	立坑工	基準高▽	± 30	5 基につき 1 箇所以上測定。			
				寸法 B	±100	_			
				深さ h	±30	_	h		
	第								
	1 1						$\left \leftarrow$ B		
	章	8-11-º	立坑土工	# W. ÷	1.00	5基につき1箇所以上測定。			
	立 坑	0 11-2		基準高▽	±30	□ 毎に → ○ 1回川 以上 側 た。	100		
	坑工			砕石基礎幅 b 1	-50	_			
	-			砕石基礎厚 t 1 底版コンクリート基準高	-30 ±30	_	- Independent - La		
				₩W/// 『巫华同	± 30	_	100		
							< bl		
لــــا									

第9編 公園緑地編

番	号	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
五百章	9-2-2	植栽工 高木(H=3.0m以上)	本 数 樹 高 (H) 幹 周 (C) 枝 張 (W)	設計値以上 設計値≦H 設計値≦C<上位階 級の寸法値 設計値≦W	樹種別、規格別に各設計数量の5% を計測する。		
	9-2-3	植栽工 中低木(H=3.0m未満)	本 数 樹 高 (H) 枝 張 (W)	設計値以上 設計値≦H<上位 階級の寸法値 設計値≦W	樹種別、規格別に各設計数量の5% を計測する。		
	9-2-4	植栽工特殊樹木	本 数 樹高 (H) 幹周 (C) 枝張 (W)	設計値以上 設計値≦H 設計値≦C<上位 階級の寸法値 設計値≦W	樹種別、規格別に各設計数量の5% を計測する。		
	9-2-5	植栽工地被類	本数又は面積 茎長 (L) 芽 立 ち	設計値≦L	設計数量の0.5%を計測する。		

_			T	T	1米形恢宜基準及	見俗他(単位mm <i>)</i>		
1	番	号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第	第	10-3-1	山腹線的緑化工	階 段 延 長	-200	施工延長100mにつき1箇所以上		
1	3		(筋工、柵工等)	階段幅		測定。		
0	章		(木柵工等)	高				
編	山			杭根入れ長				
治	腹			杭 長 木 米	12 TO 1 1 1 1 2 TO 1	植栽本数の測定は、1箇所当たり、2		
山	工	10-3-9	山腹面的緑化工	植栽本数面		Omとする。 面積は1工事当りの総面積とする。		+
編		10 5 2	(吹付工、伏工、植栽工等)	0 / 5m	-200	施工面積200m2につき1箇所以上測		
			()(111()(11()(11)(11)(11)(11)	法長ℓ ℓ 5m	法長の一4%	WETER MANAGEMENT OF THE PROPERTY OF THE PROPER		
				t < 5cm	-10	施工面積500m2につき1箇所以上測		
				t ≧ 5cm	法長の-4%	定。但し、面積500m2以下の場合		
					面に凹凸がある場合 厚は、設計値の50%	は、1箇所以上測定。 □50mm検査孔により測定。		
					タは、欧田 直り50m 均厚は設計値以上。			
				12		植栽本数は、植栽面積1000m2につ		
				L++ +b -L- 16/	20.21 /+ pr 1	いて1箇所以上測定。		
				植栽本数	設計値以上	植栽本数の測定範囲は、1箇所当		
						り2m×5mとする。		
		10-3-3	山腹水路工	弦 長 (幅)	±100	施工延長100mにつき1箇所以	1 1	
			(張芝、土壌水路工等)	,		上測定。		
				矢 高 (深 さ) h	-50			
				延 長 I	-200		" // "	
		10 :			3n, 31 See C	March Lake and a second	<u> </u>	
		10-4	ロープネット工	アンカー削孔深さ		施工本数の5% 最小本数3本		岩部用アンカー・ 土砂部アンカー
,					地面に垂直に削孔	取小学数 0 平		ともに適用。
				アンカー削孔方向	し、下向き40度、		**	
					上向き15度以内		# X G	
				基準軸	±200	施工延長20mにつき1箇所以上測	* 1	測定項目、ロー
				ロープ間隔基準軸		定。 施工面積500m2当たり1格子(2m	L1 × D	プ間隔の検査基 準、施工延長に
				基 毕 以外	+500	施工団領500m2当たり1格子(2m ×2m)以上測定。	寫	ついては、全施
				501		施工面積200m2に1本以上測定。	** •	工箇所の鉛直方 向(縦)と水平方
				基準軸	2m~4m ±400			向(横)を合計し
				ロープ延長	$4m\sim 20m \pm 500$		開寫	た延長とする。
				基準軸	20m∼ ±500		機基準軸 L2	
				以外	設計値以上		(施工延長 = L1+L2+····)	
	第	10-5-1	植栽工	本数	: 設計値以上	本数については、施工管理図(管		
	5		(緑化工)	樹高・枝礁	設計値以上	理写真)及び納品書を確認。		
	章		大苗	目通り幹馬	-10	樹高、枝張、目通り幹周について は、地区別、樹種別、規格別に1		
	自		中苗			本以上測定。		
	然							
	林造	10-5-2	植栽工	樹高・本数	設計値以上	本数については、施工管理図(管理の表表)となる。		
	足成		(緑化工)			理写真)及び納品書を確認。樹高 については、地区別、樹種別、規		
)JX.		小带			格別に1本以上測定。		
	改	10-5-3	支柱	本 数	設計値以上	本数、末口径、長さについては、		
	良	10 0 0	, A.E.	末 口 径		施工管理図 (管理写真) 及び納品		
	- \			長さ		書を確認。		
		10-5-4		長さ	設計値以上	施工面積200㎡につき1箇所以上		
ŀ	Anha-	10-5-5	(広場造成) 植栽工(森林整備)	本数	設計値以上	測定。 測定は、標準地(以下プロットと言		
	213	10-5-5	旭秋上(林小宝湘)	本	以可但以上	う)による。プロットは、1施工面積		
	5 章					2haに1箇所以上測定。1プロット		
	早					は、IOm×IOm以上とし、フロットの平均数量を求める。		
	本					※プロット平均は、1施工区毎とす		
	森林	10-5-6	枯莢	高さ	設計値以上	る。 測定は、標準地(以下プロットと言		1
	整整	10 9-0	1人1台 し	IHU C	以印但处上	う)による。プロットは、1施工面積		
	盤備					2 haに 1 箇所以上測定。 1 プロット		
	νН			本数	(は、10m×10m以上とし、プロットの平均数量を求める。※プロット平		
						均は、1施工区毎とする。測線又は対		
				測線又は対角線	±200	角線及び方位角は、全施工面積 2 haに つき 1 箇所以上測定。		
				方 位 角	±1°	- C I EI// (A/I-199/C)		
		10-5-7	本数調整伐	(t/2/1 標準 地	±2本	測定は、標準地(以下プロットと言		測定項目の材積
				標準地平均		う)による。プロットは、1施工面積 2haに1箇所以上測定。1プロット		又は胸高断面積 の2本相当につ
				N積 1標準地	±2本相当材積 又は胸高断面積	は、10m×10m以上とし、プロッ		いては、標準地
				又は 胸高	10本担当社	トの平均数量を求める。※プロット平		全体本数の平均
				断面積 標準地平均	又は胸高断面積	均は、1施工区毎とする。測線又は対 角線及び方位角は、全施工面積2haに		材積又は胸高断 面積とする。
				測線又は対角線		つき1箇所以上測定。		
		10-5-8	(最起)	方 位 角 本 数		測定は、標準地(以下プロットと言		1
		10-9-9	当だし	分* 发	以可胆丛上	例 たは、 信		
						2 haに 1 箇所以上測定。 1 プロット		
						は、10m×10m以上とし、プロットの平均数量を求める。※プロット平		
						均は、1施工区毎とする。測線又は対		
				測線又は対角線	±200	角線及び方位角は、全施工面積 2 haに つき 1 箇所以上測定。		
				方 位 角		- C I EI// (A/I-199/C)		
		10-5-9	下刈・つる切り	測線又は対角線	±200	全施工面積2haに1箇所以上測定。		
		10 5 10	PA LI-	方 位 角		入先工工练011z + 株工N 1 季1点		1
		10-5-10	际仅	測線又は対角線方位を		全施工面積2haに1箇所以上測定。		
		10-5-11	作業歩道 (W≦50cm)	測点間距離		施工延長200mにつき1箇所以上		+
				幅	-100	測定。		<u> </u>
1		10-5-12	作業歩道 (W>50cm)	測点間距離		施工延長200mにつき1箇所以上		
		10-5-10	作業再項	幅幅を表してた雑ぎる	-150	測定。		_
ш		10-9-13	作業車道	林道土工に準ずる	1			

第11編 林道編

	_								: 規格他 (単位mm)			_
3	番	号	工	種	ì	測定項	[目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘	更
第 1	第 1	11-1	林道土工		基	準	高	±100	施工延長200mにつき、1箇 所以上測定			
1 編	1 編				幅		b	-100				
						盛土	≤ 5m	-100		17		
林道編	林道編				法長	i l	≥ 5m	-2%		//2		
Луни	/PHH					切土	⊠ 5m	-200		1 D 1		
						<i>7</i>	≥ 5m	-4%		 		
					路	床	厚	-45				
					測 .		距離	±100		l pi l		
						P 間	□40	±200		₩ 7		
					距	離	≅40	±0.5%		1.		
					交		角	\pm 1 $^{\circ}$		13//		

	番	号	工種	測定項目	食基準規格値(単 規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
第	第	12-1	水路トンネル	間隔 L	±75	(1)基準高、幅、高さ		土地改良に適用
1	1		(支保工)	幅 b(Bタイプ)	-0	延長100mにつき1箇所以上測定。		
2	2			(C、Dタイプ)	-40	(2)厚さ	設計卷厚線	
編	編		(コンクリート覆	基準高	±50	(イ)コンクリート打設前の巻立空間を1 0打設長の割合で中間と終点を図に示す	(D線)	
土	土		工)	厚さ t	-0	各点①~⑩で測定。	-e B	
地	地			幅 b	-40	(ロ)コンクリート打設後、覆工コンク	(
改				高さ h	-40	リートについて10打設長の割合で端点	S. L. H	
良				中心線のずれe 直線	±100	(施工継手の位置) において、図に示す 各点①~⑩の巻厚測定を行う。	B2 11	
編	編			曲線	±150	ただし、上部半断面先進工法の場合④	lv lv	
				施工延長 L<150m	-150	~ ⑦については、上半のセントルの間隔 程度でよい。		
				L≧150m	-0.1%		①~④	
						(ハ)せん孔による巻厚の測定は、図の①は100mに1箇所、②~③は200m	削孔測定位置	
						に1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下の	3	
						ものについては、1トンネル当たり2箇		
						所以上のせん孔による測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記に	S. L (5)	
						よることが好ましくない場合は、監督員		
						の指示により間隔を拡げることができ る。	- (7) V (8) -	
						'చిం	(a) (b)	
							1 1	
		12 - 2	防護柵	施工延長 L	-200	施工延長200mにつき、1箇所以上測 定。		土地改良に適用
			lete 1 min	//LI/EX 1				the National and N
		12 - 3	管水路	基準高	(注1) ±50	基準高については、施工延長100 mにつき1箇所以上測定。		基準高の測定は管底 を原則とする。ただ
			(RC管、PC管)		±30	中心線のずれ、ジョイント間隔、ゴ	ジョイント間隔	し、φ1350mm以下又
				中心線のずれ	±100	ム輪位置については適宜測定。	測定個所	は管底での測定が困 難な場合は管頂まで
					農林省監修土木工	1		埋戻後の管頂でも良
				ジョイント間隔	事施工管理基準に			い。
					よる			中心線のずれの測定
				L<200m	-200		()	は管頂まで埋戻時の
				施工延長 L≥200m	-0.1%	(注1)		管頂を原則とする。
				2_200m	0.170	被圧地下水のある場所に適用		
		12 - 4	管水路	基準高	(注1) ±50	基準高については、施工延長100		基準高の測定は管底
			(鋳鉄管、強化プラ	左 毕向	±30	¬mにつき1箇所以上測定。 →中心線のずれ、ジョイント間隔、ゴ	ジョイント間隔	を原則とする。ただ し、φ1350mm以下又
			ステック複合管)	中心線のずれ	±100	ム輪位置については適宜測定。	測定個所	は管底での測定が困
				施工延長 L<200m	-200	1		難な場合は管頂まで
I	1			L≥200m	-0.1%	4		埋戻後の管頂でも良 い。
I	1			35 . Z) . 1 BB#F	農林省監修土木工	(24.1)	l by	
I	1			ジョイント間隔	事施工管理基準による	(注1) 被圧地下水のある場所に適用		中心線のずれの測定 は管頂まで埋戻時の
I				たわみ率	±5%	99///II-XE/II		管頂を原則とする。
I		12-5	管水路	基準高	±50	基準高あるいは埋設深については、		土地改良に適用
I		14 - 0	(硬質塩化ビニール	I < 200m	-200	施工延長100mにつき1箇所以上		埋設深は基準高を規
I	1		管)	施工延長 L≥200m	-0.1%	- 測定。 中心線のずれについては、適宜測		定していない場合に 適用する。
I	1		- /	埋設深	-50	定。		畑川りる。
I				中心線のずれ		1		
I	1				±120			
I	1	12-6	管水路基礎	高さ (V ₂ -V ₁)	±30	施工延長100mにつき、1箇所以		土地改良に適用
I	1			幅	-100	上測定。	\	基礎材が異なる場合 は種類毎に測定す
I	1						\	る。
I	1						▼ ∨.	
I	1							
I	1						_\ () /.	
I	1						\ ▼ ₩	
I	1						ъ	
I	1						↑ b: 1	
I	1						r1	
	1		I.		l.			1

3	番	号	工種	測定項		1. 基	測定基準	測定箇所	摘要
			.—						1
第 1	第 1	12 - 7	ほ場整備農地開発	基準高		±40	施工延長200mにつき1箇所以上 測定。	į b y	
2	2		U字溝BF水路	唱	. 0 m	-50 -100	1	1 : n	
編	編				. 0 m ×当たり	-100 ±50	4	1:n/b	
1,500				接合 10本			4	/ \	
土	土			施工延長	L < 200 m	-200 -0.10'			
地	地			34 April	L ≧200m	-0.1% ±0.1	4		
改白	改白	10 0)エ 相 軟 (共 曲 14 88 4/6	法勾配 基準高		±0.1 ±50	施工延長200mにつき1箇所以上		
良編	良編		ほ場整備農地開発 組立柵きょ工	基準度 幅 b	1	±50 -40	■旭工延長200mにつき1箇所以工 ■測定。	k b y ibi ibi k b y	
/179988	7/1111		組立価さま工	接合10本	- л< N	±50	-		
				1女日10年	L < 150m	-150	_	1:n /1:n	
				施工延長	L < 150m L ≧ 150m	-0.1%	_		
				法勾配	n	±0.1	_		
		12-9	ほ場整備土水路工	基準高		±100	施工延長300mにつき1箇所以上		
		12 0	133加亚加土水阳工	水路幅	b 1	-75	測定。	[թ։↓ թ։ 1թ։1	
					b ₂ <1.0m	-50	_	I, \(\frac{1}{2} \)	
				天端幅	b 2 ≥ 1.0m	-100		1:n/\1:n \1:n \1:n	
				高さ	h	-75	1		
					L < 200m	-400	1		
				施工延長	L ≧200m	-0.2%		b ₁	
				法勾配	n	±0.1		1	
		12-10	ほ場整備農地開発土	基準高	i .	±150	幹線道路:施工延長200mにつき1箇		
			砂道	幅		-150	■所以上測定。 ■支線道路:施工延長500mにつき1箇		
				路床厚	<u>[</u>	-45	■文線道路:施工延長500mにつざ1箇 ■所以上測定。		
				施工延長	L ≧200m	-0.2%			
					L < 200m	-400			<u> </u>
		12 - 11	敷砂利	幅		-100	施工延長300mにつき1箇所以上		土地改良に適用
				厚さ		-45	測定。		
				施工延長	L < 50 m	-100	<u> </u>		
					L ≧50m	-0.2%			
		12 - 12	ほ場整備整地工	基準高		±150	3 ha当たり1筆の割合で、10アー ル当たり3箇所以上測定。		
			(水田)	(指定した			//・コルリョ 固別以上側止。 -		
				表土深		-20%			
				均平度	ŧ	±50	<u> </u>		
		10 :-	Var. 18 dels ble dels 12	工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工			01 Web 1 Mr orbit A		
		12-13	ほ場整備整地工 (畑地)	基準高		± 200	3ha当たり1筆の割合で、10アール当たり3箇所以上測定。		
				(指定した時) 表土深			一一一一一一一一一		
						-20%	4		
		10 14	ほ場整備畦畔工	均平度		±100 -50	施工延長500mにつき1箇所以上		+
		12-14	₹法場整備 畦 畔 工	些畔高 畦畔幅	h b	-50 -50	爬工延長500mにつき1箇所以上 測定。	<u>р</u> Л	
				生呼幅 b 法勾配 n		±0.1	+	[
						±0.1	+	h [†] /	
								\ *\sigma_s	
								/	
		12-15	ほ場整備農地開発	布設深	Ę	-75	10本につき1本の割合で以下によ		
		10	暗渠排水工	間隔	-	±750	り測定。		
					L < 500m	-1, 000	上・下流端の2箇所、ただし、1本 の布設長が100m以下のときは、	hĵ	
				施工延長	L ≥500m	-0. 2%	■の布設長が100m以下のとざは、 中間点を加えた3箇所を測定。	L L	
						. =,-			
		12 - 16	農地造成	幅及び長	<i>.</i> 5	±0.5%	1ha当たり1箇所以上測定。	指定した時	lha当たりおおむね1箇所
			(山成畑)	耕起幅	i	±0.5%			測定
				基準高	i .	±300	指示した時。		
				耕起深	(果樹)	-75	施工面積1ha当たり3箇所以上測定す		
				P.1.	(野菜)	-15	るほか、つぼ掘り1箇所以上を行い測		
		12 - 17	農地造成	幅員		-150	テラス延長200mにつき1箇所以上測		
			(テラス)	耕起幅		-150	定。	4	
				耕起深	(果樹)	-75	施工面積1ha当たり3箇所以上測定するほか、つぼ掘り1箇所以上を行い測		
					(野菜)	-15	⇒	4	
				土水路	幅	-75 75	ほ場整備土水路工に準拠する。		
		10 10	1 1434 0		高さ	-75	佐丁石徳1001-東大町佐工の中へっ		
		12-18	土壤改良	PH測	正	±0.5	施工面積100ha当たり1箇所の割合で 測定(深さ15cm)。改良剤散布後2週		
							間以上経過してから測定する。		
ш								1	

3	番	号	工 種	測定項		規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
第	第	12-19	表面被覆工	高さ(壁)	高)	-30	施工延長100mにつき、1箇所以		
1 2	1 2			幅		-30	上測定。	$\star \vdash \vdash \bigvee$	
編	編							h1 h2	
١.									
土地	土地								
改良	改				長	-200	施工延長100mにつき、1箇所以 上測定。		
艮編	良編			厚	さ	設計値以上	150,700	\neg	
/P/IIII	лупа							$t \rightarrow k + t$	
		12 - 20	目地補修工	ZīL	Ē	-200	施工延長100mにつき、1箇所以		
		12-20	日地補修工	延幅	長	-200 幅、厚さ 現場塗装工			
					さ	の基準を準用 a. ロットの塗膜厚平			
						均値は、目標塗膜厚合			
						計値の90%以上。 b. 測定値の最小値			
						は、目標塗層厚合計値 の70%以上。			
						C. 測定値の分布の標			
						準偏差は、目標塗膜厚合計値より大きい場合			
						はこの限りではない。			
		12-21	頭首工	基準	高	±30	構造図の寸法表示箇所で、任意の部		
			(本体)		端幅等	-30	分を測定する		
				エフ	ロン部	-60			
					エプロン部 た壁等	-30 -30	-		
				長	さ	-100			
		12-22		基準高		±150	基準高については施工面積200m2に		
			(護床(異形)ブロ	面積		-0.2%	つき1箇所以上測定する。上記未満 は2箇所測定する。		
		12-23	ック) ため池改修工	基準高	V	±100	施工延長おおむね40mにつき1箇所	T 🗸	
			(堤体工)	堤幅	W	-100	の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。	, <u> </u>	
					L	-100	■上記术演は2箇所例だりる。 基準高は中心線及び各端部で測定。		
				施工延	長 高さ H	-200 ±100			
				段切り	幅 B	-150			
								<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>	
								*. *.	
								<i>777</i> //	
								-15-5/(_/s	
					刃金土	+500、-0	施工延長おおむね40mにつき盛土高 さ2m上がるごとに測定する。	Bi Bi	
				ゾーン幅 B		フィルダムコア盛立を準用			
					抱土	-100			
					167	土工盛土工を準用			
		12-24	ため池改修工	基準高	V	±30	基準高、幅、厚さ、高さ、中心線の		
	l		(洪水吐工)	幅I		±30	ずれについては施工延長2スパンに つき1箇所の割合で測定する。	-	
					T	±20	箇所単位のものについては構造図の	B, T	
					H 直線部	±30 ±50	寸法表示箇所で、任意に部分を測定 する。		
	l			中心線のずれ e	直線部 曲線部	±100		H	
				スパン長 L	直線部	±20	j	V T ₅	
	l				曲線部	±30		T. B. T.	
				施工延長(又	は長さ)	-150			

番 号 工 種 測定項目 規 格 第 第 12-25 ため池改修工 基準高 V ±3 1 1 (樋管工) 幅 B -2 2 2 編 上砂吐ゲート等 高さ H -2 中小線のずれ 直線部 ±5	基準高、幅、厚さ、高さ、中心線の ずれについては施工張20mにつき 1 箇所の割合で測定する。 ジョイント間隔については、2 本毎
1 1 (樋管工) 幅 B -2 2 2 同上付帯構造物 厚さ T -2 編 土砂吐ゲート等 高さ H -2	ずれについては施工延長20mにつき 1 箇所の割合で測定する。 ジョイント間隔については、2 本毎 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 2編 同上付帯構造物 上砂吐ゲート等 高さ H	1 箇所の割合で測定する。
編編	
2.7 2.7 1.4	
	に測定する。 箇所単位のものについては構造図の
土土	寸法表示箇所で、任意の部分を測定 / 「」 v 日
地 地	9 %
改 改 改 良 良 施工延長(又は長さ) -18	
編編	
7,00	々の計測値 1. 個々の計測値の規格値には、計測 ## ## ##
(UAV出来形管理技 平場 標高較差 ±100	+150 精度として±50mmが含まれている。
術及でTIS出来形管 掘削 法面(小 水平またけ	2. 計測は天端面(掘削の場合は平場 + 160 面)と法面(小段を含む)の全面と
理技術の場合) 投含む) 標高較差 ±70	土160 間)と法国(小校を古む)の主国とし、し、全ての点で設計面との標高較差
天端 標高較差 ±100	±150 又は水平較差を算出する。計測密度
盛土 法面(小 振克软羊 100	- 100 は1点/m2 (平面投影面積当たり) - 100 以上とする。
・ は は (1) 標高較差 ±80	3. 法肩、法尻から水平方向に±50mm
ほ場整備工事 平均値	々の計測値 以内に存在する計測点は、標高較差
(UAV出来形管理技 基盤	の評価から除く。同様に、標高方向 に±50mm以内にある計測点は水平較 盛 土
造成、	±150 差の評価から除く。
理技術の場合) 整地 整地	4.評価する範囲は、連続する一つの 面とすることを基本とする。規格値
	が変わる場合は、評価区間を分割す
	るか、あるいは規格値の条件の最も
	厳しい値を採用する。 5.1工事につき1管理断面を出来形
	管理用TS等光波方式等を用い測
	※図中の破線四角部(法肩、法尻から水 平方向に±50mm以内に存在する計測点及
	び標高方向に±50mm以内にある計測点)
	は、較差の評価から除く
共通工事 測定項目は、出来形管理基 規格値は、	対来形 1.1工事につき1管理断面を出来形 掘削、盛土、管水路、開水路の出来形測
共通工事 測定項目は、出来形管理基 規格値は、 (出来形管理用TS技 準の第1編共通編及び第1 管理基準の	5 1 編 管理用TS等光波方式等を用い測 定対象点は下図のとおりとし、ほ場整備
(日本ルトラス 2編土地改良編 (12-1~12- 共通編及び	正事及び図示がない工種は、第1編共通 編及び第12編十地改良編 (12-1~12-1
	■ (12- C 1 1 1 1 1 1 1 1 1
1~12-25) (出来形管理用TS技	- (CO) engl (細) 、 よみ(切)
術の場合)	報 前 【
管水路工事	974 H1
(出来形管理用TS技	
術の場合)	一
	A
	盛」土
	The state of the s
	管水路
	18745AR
	\(\frac{1}{2}\)
	VERRIBBERER
	開水路
	■: 土工における出来形測定対象点

注) 上記施工管理基準に記載のない工種については、第1編 第1章1-1-27 施工管理基準の規定に従う。

塗装標準膜厚

塗装標準膜厚は、下表を標準とする。

	22.00分	は、下表を標準とする。	1				
涂	装系	名称	規格	使用量	塗膜厚	合計厚	摘要
	28/11	∠H ,k1.	796 10	g/m²	μ m	μ m	加女
外面	面用・	内面用塗装					
		長ばく型エッチングプライマー	JIS K 5633 2種	130	15		*
Α	工	鉛系さび止めペイント	JIS K 5623 1種	170	35		*
1	場	町木でい上⊗/ ヘイント	∼K 5625	170	აა		^
1		JJ	II .	170	35	85	*
	現	長油性フタル酸樹脂(中塗用)	JIS K 5516 2種	120	30		
	場	" (上塗用)	II .	110	25	140	
		長ばく型エッチングプライマー	JIS K 5633 2種	130	15		*
С		かってしています。ハコ	JIS K 5623 1種	170	0.5		
	工場	鉛系さび止めペイント	∼K 5625	170	35		*
1	勿	JJ	11	170	35		*
		フェノール樹脂MIO塗料	第1編2-13-1、8項の規格	300	45	130	*
2	現	塩化ゴム系塗料(中塗料)	JIS K 5639	170	35		*
	場	ル (上塗料)	JIS K 5639	150	30	195	
		長ばく型エッチングプライマー	JIS K 5633 2種	130	15		*
D	工	タールエポキシ樹脂塗料 1種	JIS K 5664 1種	360	120		*
	場	"	ı,	360	120	255	*
塗り	 り替え	 用					
a			JIS K 5623 1種		()		
		鉛系さび止めペイント	∼K 5625	140	(35)		
1	現	JJ	IJ	140	(35)		
	場	長油性フタル酸樹脂(中塗用)	JIS K 5516 2種	120	(30)		
1		" (上途用)	ı,	110	(25)	(125)	
b			JIS K 5623 1種			, ,	
		鉛系さび止めペイント	~K 5625	140	(35)		
1	現	IJ	"	140	(35)		
	場	フェノール樹脂MIO塗料	第1編2-13-1、8項の規格	250			
1		塩化ゴム系塗料(中塗料)	JIS K 5639	170	(35)		
1		// (上途料)	<i>II</i>	150	(30)	(180)	
С		変形エポキシ樹脂下塗り塗料	第1編2-13-1、10項の規格		(60)	(/	
		川		240	(60)		
	現	ıı	"	240	(60)		
	場	ポリウレタン樹脂中塗り塗料	第1編2-13-1、11項の規格	+	(30)		
1		ポリウレタン樹脂上塗り塗料	第1編2-13-1、12項の規格	l	(25)	(235)	
1		タワファファ 肉川工室ソ室帽	// / I // II / I / I / I / I / I / I /	120	(40)	(400)	

注1. 塗料使用量: 摘要欄の*印はスプレー塗りを、無印はハケ塗りを示す。

注2. 塗り替え用は塗料使用量(使用前、使用後)で検収する。なお、塗装厚は参考として()書で示して